

下呂市文化財調査報告書第11集

1986年度『桜洞神田遺跡発掘調査報告書』再整理事業
桜洞神田遺跡 遺物実測図・写真図版

2020

下呂市教育委員会

●一 例言

- 1 本書は、岐阜県下呂市萩原町桜洞所在の桜洞神田遺跡（岐阜県遺跡番号 21220-853）の埋蔵文化財調査報告書である。平成 27 年度から令和元年度にかけて実施した出土遺物の再整理事業について報告する。
- 2 本書掲載の遺物は、団体営圃場整備事業萩原町桜洞地区の実施計画に伴い行われた緊急発掘調査の出土遺物である。発掘調査は、萩原町長 今井基彦を団長とする調査団が主体となり、昭和 61 年 4 月 25 日から昭和 62 年 3 月 20 日に実施した。発掘調査報告書は、昭和 62 年 3 月に萩原町教育委員会から『桜洞神田遺跡－桜洞神田遺跡発掘調査報告書－』として刊行した。
- 3 本書の編集は、馬場伸一郎による監督の下、有限会社毛野考古学研究所富山支所 常深尚が行った。
- 4 本書掲載の遺物実測及び写真撮影、観察表作成は、平成 27 年度から令和元年度まで、有限会社毛野考古学研究所富山支所に委託して実施した。
- 5 本書作成にあたり、次の方々及び諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・五十音順）。
浅間陽・岩田崇・大石崇史・長田友也・瀬瀬茂・高橋健太郎・寺内隆夫・町田賢一・三好清超
- 6 本書掲載の出土遺物は、下呂市教育委員会で保管している。

●一 凡例

- 1 遺物実測図の縮尺は、各図に示した。
- 2 遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版の全てに共通する。
- 3 昭和 61 年 4 月 25 日から昭和 62 年 3 月 20 日に行われた発掘調査の検出遺構及び出土遺物状況については、萩原町教育委員会刊行の『桜洞神田遺跡－桜洞神田遺跡発掘調査報告書－』をご参照頂きたい。ただし、執筆者より、同教育委員会刊行の発掘調査報告書中に誤字・脱字等が多数存在しているとの指摘を受けている。そのため、本来であるならば既刊の発掘調査報告書の訂正作業からまず行わなければならないが、それを行うことができなかったことをお詫び申し上げる。本書とともに、以下の文献をご参照頂きたい。

鈴木正博 2013 「『桜洞神田遺跡－桜洞神田遺跡発掘調査報告書－』（1986，萩原町教育委員会）の初校正版」『実践！パブリック・アーケオロジー』、237-246 頁、馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム。

●一 目次

例言・凡例・目次

1 昭和 61 年度の発掘調査で出土した縄文時代前期～中期の土器の概要	1
2 昭和 61 年度の発掘調査で出土した遺物の実測図	3
遺物観察表・遺物写真図版	21
報告書抄録	

1 昭和 61 年度の発掘調査で出土した縄文時代前期～中期の土器の概要

ここでは、検出された竪穴住居跡単位に、出土土器の概略について報告する。

① 1号住居跡

11 は大歳山式、12・13 は前期後葉から前期末の土器である。1・14～16 は串田新Ⅱ式、2 は唐草文系Ⅲ期、3 は井戸尻式系、4 は船元Ⅲ式、5・17 は中期後葉の曾利式系、6 は加曾利 E3 式系である。前期後葉から前期末、中期中葉から中期後葉の土器が出土している。

② 2号住居跡

20 は加曾利 E3 式系で、1987 報告では「埋甕」と報告されている。その他の出土土器の仔細は不明である。

③ 3号住居跡

21 は加曾利 E3 式系の土器で、東海地方西部では取組式とも呼ばれている。

④ 4号住居跡

28・31～33・35～37 は、前期後葉から前期末に該当する。22・23・25 は波状口縁部に沿い隆帯に刻目を施す。中野山越 A2 類土器から派生した在地系と推定される中期中葉から中期後葉の土器である。40 は、曾利Ⅳ式前後の系統の土器で、東海地方西部では塚原式とも呼ばれる。

⑤ 5号住居跡

42・43 は中期中葉の台付鉢、45～49・59 は串田新Ⅱ式もしくはその系統の土器、50・51 は前田・岩嶺野式、52・62 は加曾利 E3 系の土器、53・54・61・63 は曾利Ⅱ式系、55・60 は唐草文系Ⅲ期の土器である。64 は唐草文系Ⅲ期の大型の埋甕である。5号住居跡では中期後葉から中期末の土器が出土する。

⑥ 6号住居跡

93～97・99 は前期後葉から前期末の土器である。79 は船元Ⅱ式、80 は里木Ⅱ式、104 は船元Ⅲ式で西日本系に該当する。81 は山田平Ⅲ式、82 は山田平Ⅱ式、91 は北裏 C1 式、98 は北裏 C1～C2 式もしくは山田平式、100 は北裏 C1 式もしくは C2 式の土器で、東海西部に中心範囲をもつ一連系統の土器である。86 は新崎式、87・88 は上山田式の浅鉢で北陸系の土器である。116 は藤内Ⅰ式、118 は下伊那櫛形文土器に類似する中期中葉の土器、92 は藤内Ⅰ式と推定される。89 は褶曲文のある梨久保 B 式もしくはその前後の土器、105・106 は船元式の影響を受けた梨久保 B 式併行の土器、107 は井戸尻Ⅰ式、108 は平出第Ⅲ類 A 系統でリボン状突帯をもつ井戸尻Ⅱ式、113 は井戸尻Ⅰ式もしくはⅡ式の土器で、信州系土器の存在が目立つ。117 の深鉢と 90 は在地系の土器と考えられる。

このように、6号住居跡出土土器には中期前葉から中期中葉段階の土器が含まれる。特に中期中葉に関しては飛騨・東海西部・信州・西日本の各系統の土器型式に関して、併行関係を点検できる良好な出土事例である。

⑦ 7号住居跡

120 から 121 は前期後葉から前期末の土器、122 は中期中葉、123～127 は中期中葉に該当する。119 は藤内式である。

⑧ 10号住居跡

130・132・137は中期後葉、138・139は唐草文系III期もしくは曾利IV式の胴部破片、140～142は串田新式の胴部破片であろうか。

⑨ グリッド等出土土器

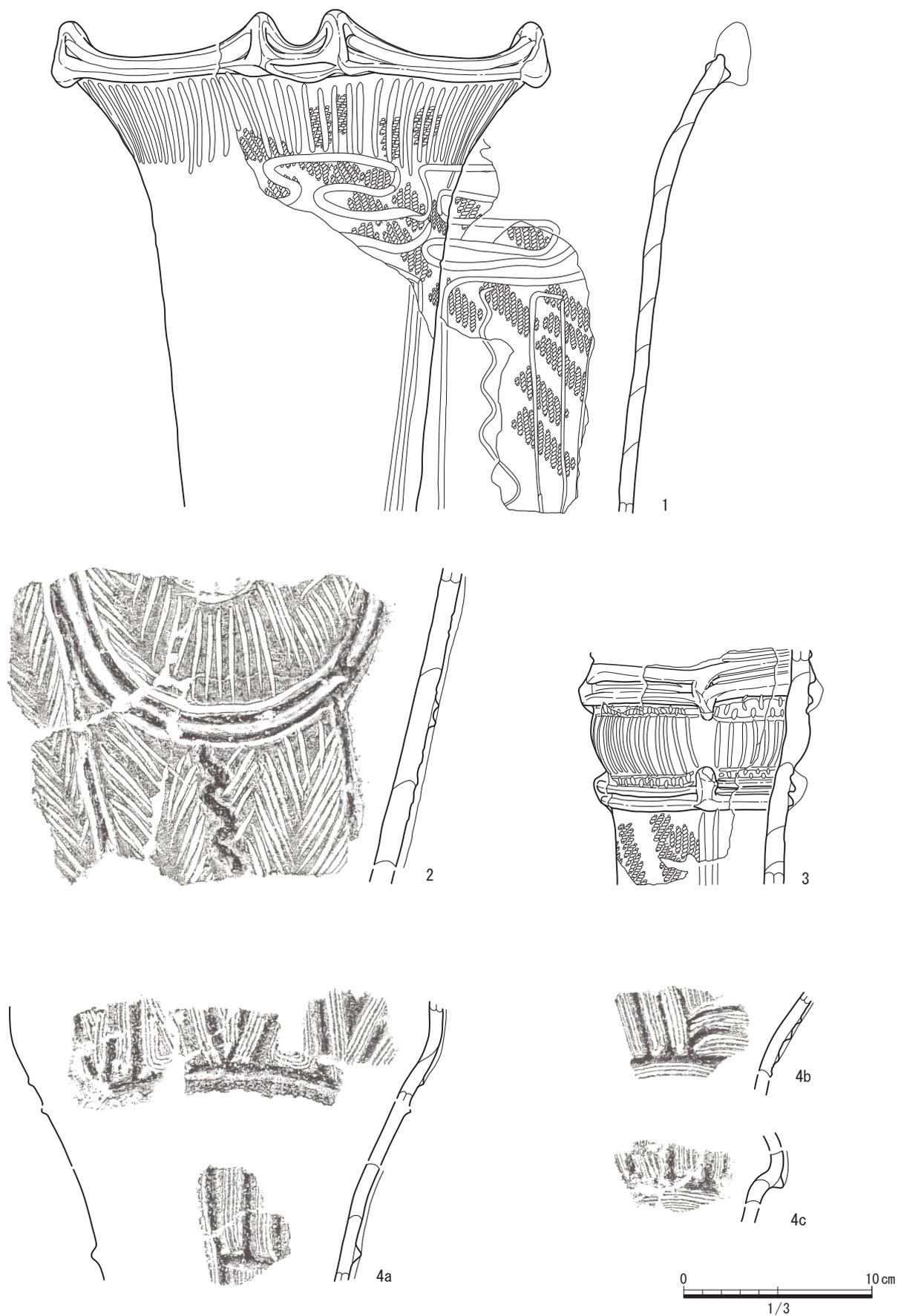
191は大歳山式、192は藤内式の深鉢、193は唐草文系III期である。192・193の出土地点の詳細は不明である。

なお、第15図～第16図の縄文後期中葉～晩期前葉及び弥生前期～中期初頭土器については、以下の文献に詳細な報告があるため、ご参照頂きたい。

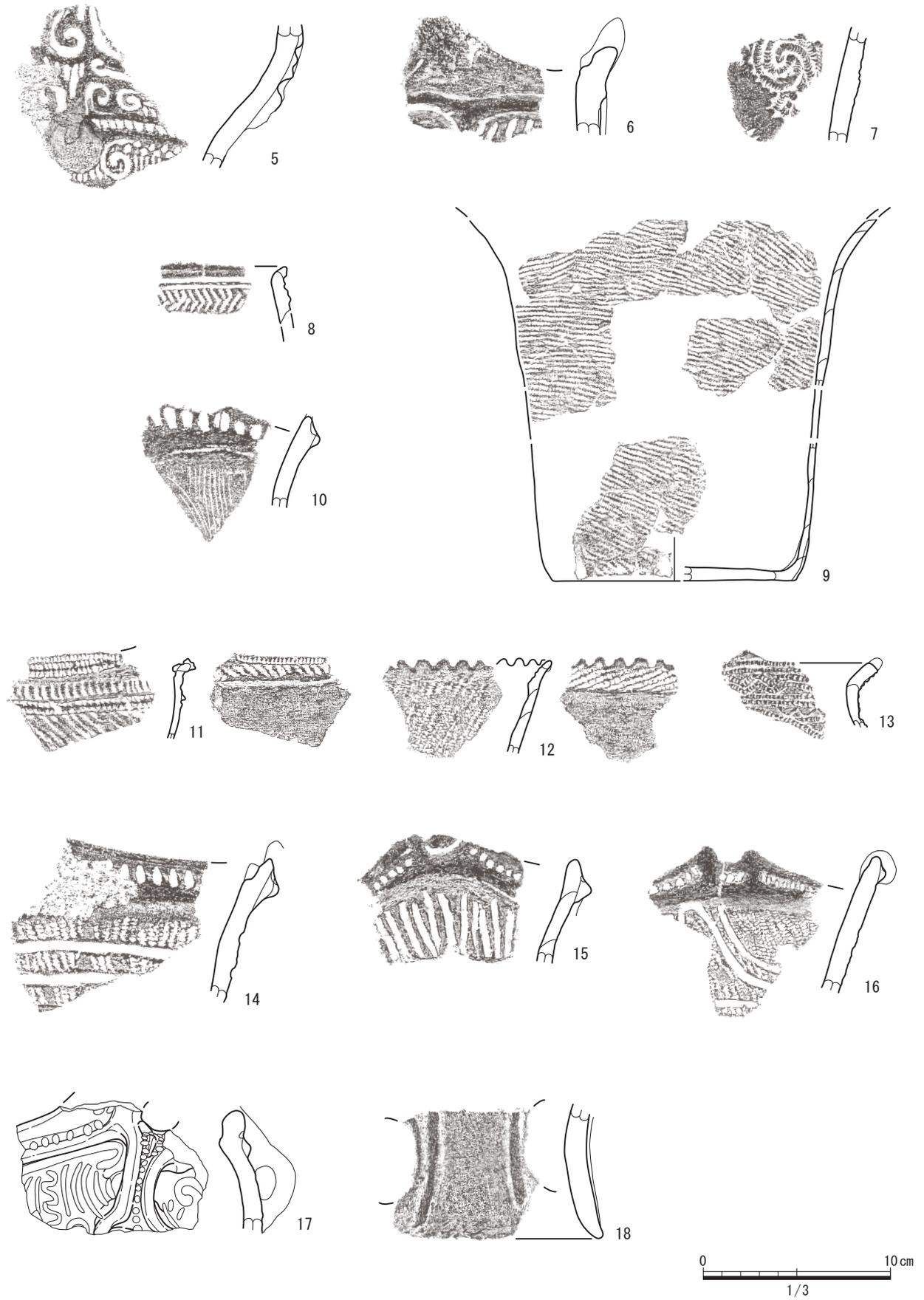
- ・鈴木正博 2013『『桜洞神田遺跡－桜洞神田遺跡発掘調査報告書－』（1986，萩原町教育委員会）の初校正版『実践！パブリック・アーケオロジ－』、237-246頁、馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム。
- ・鈴木加津子 1986「後期末葉から晩期前葉の土器」『桜洞神田遺跡－桜洞神田遺跡発掘調査報告書－』、36-39頁、萩原町教育委員会。

[参考文献]

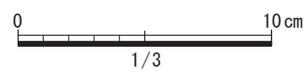
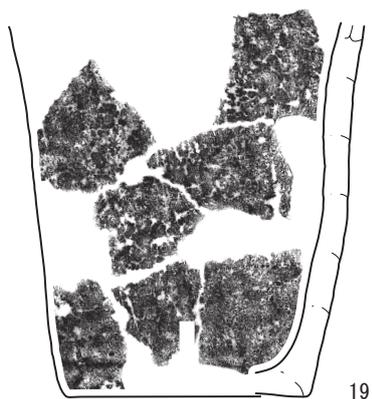
- 今福利恵・閔間俊明 2004「山梨県における縄文時代中期の時期設定」『シンポジウム縄文集落研究の新地平3－勝坂から曾利へ－』発表要旨、縄文集落研究グループセツルメント研究会。
- 小口英一郎 2004「諏訪盆地～松本盆地の様相」『シンポジウム縄文集落研究の新地平3－勝坂から曾利へ－』発表要旨、縄文集落研究グループセツルメント研究会。
- 神村透 1986「下伊那型櫛形文土器考」『長野県考古学会誌』51号
- 小島俊彰 1974「北陸の縄文時代中期の編年－戦後の研究史と現状－」『大境』第5号、富山考古学会
- 小林達雄編 2008『総覧縄文土器』、株式会社アム・プロモーション。
- 島田美佐子・町田賢一ほか 2019『布尻遺跡発掘調査報告書』、富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課
- 末木健 1978「伊那谷中部縄文中期後半の土器群とその性格－予算－」『信濃』第30巻第4号
- 戸田哲也ほか 1993『中野山越遺跡発掘調査報告書』、岐阜県吉城郡古川町教育委員会
- 福島邦男 1996「曾利式土器」『日本土器事典』、雄山閣。
- 福島邦男 1996「唐草文系土器群」『日本土器事典』、雄山閣。
- 間壁忠彦・間壁葎子 1971『里木貝塚』、倉敷考古館研究集報第7号
- 増子康真 1978「縄文中期後半土器の編年－東海地方西部地域－」『古代人』34、名古屋考古学会。
- 増子康真 1982「長野県伊那中南部地域の縄文中期後半土器の変遷－東海地方西部との編年対比－」『古代人』39、名古屋考古学会。
- 増子康真 1998「東海地方西部地域の縄文中期後半土器再考」『古代人』59、名古屋考古学会。
- 山下勝年・増子康真 2002「山田平式土器について」『伊勢湾考古』16、知多古文化研究会。



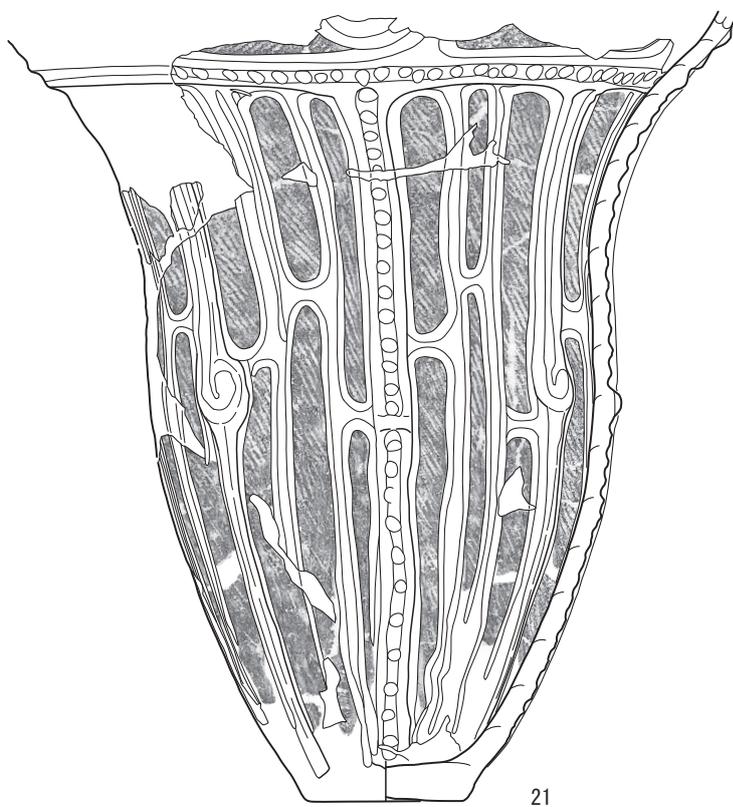
第1图 1号住居跡出土土器①



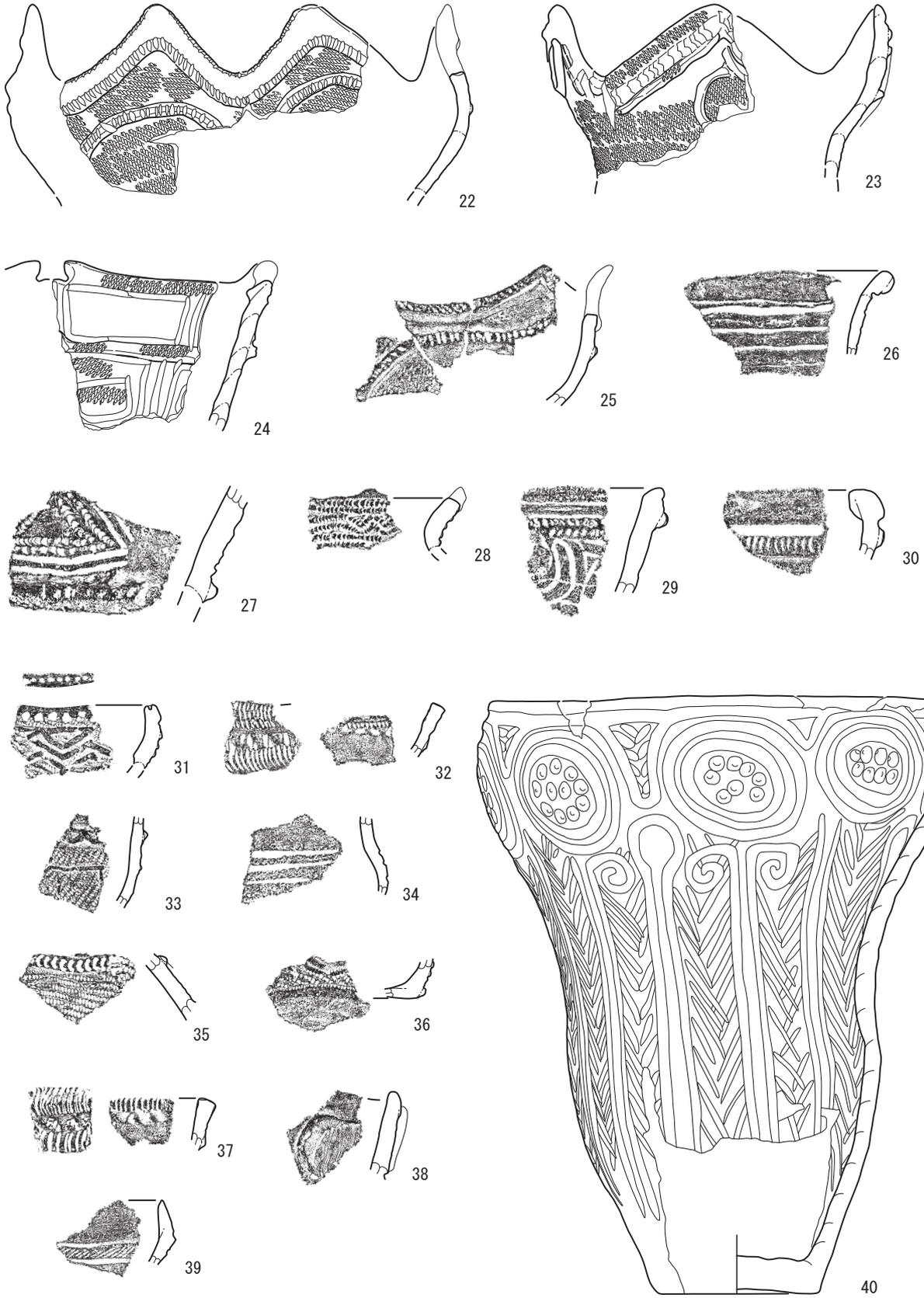
第2图 1号住居跡出土土器②



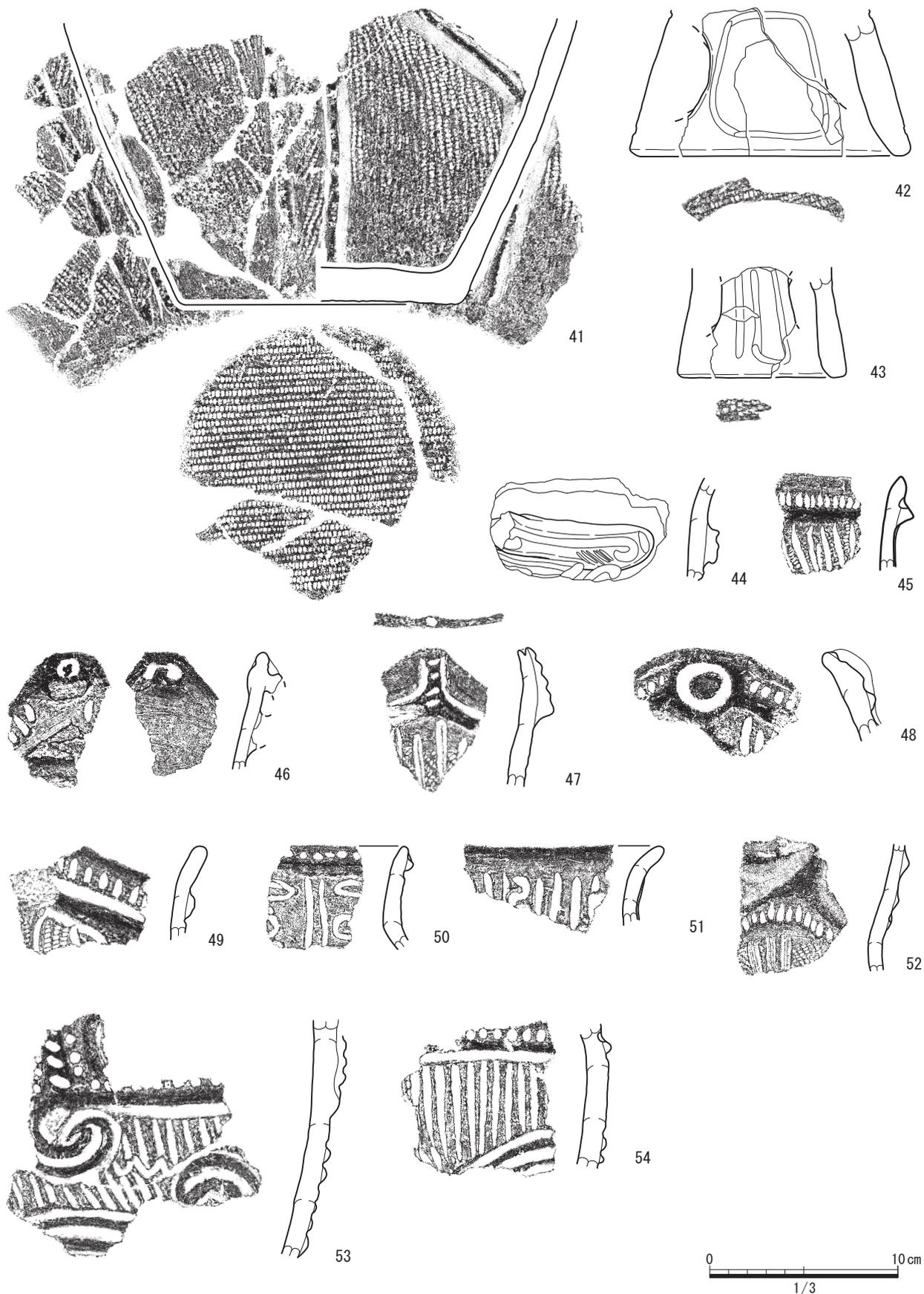
第3图 1号住居跡出土土器③



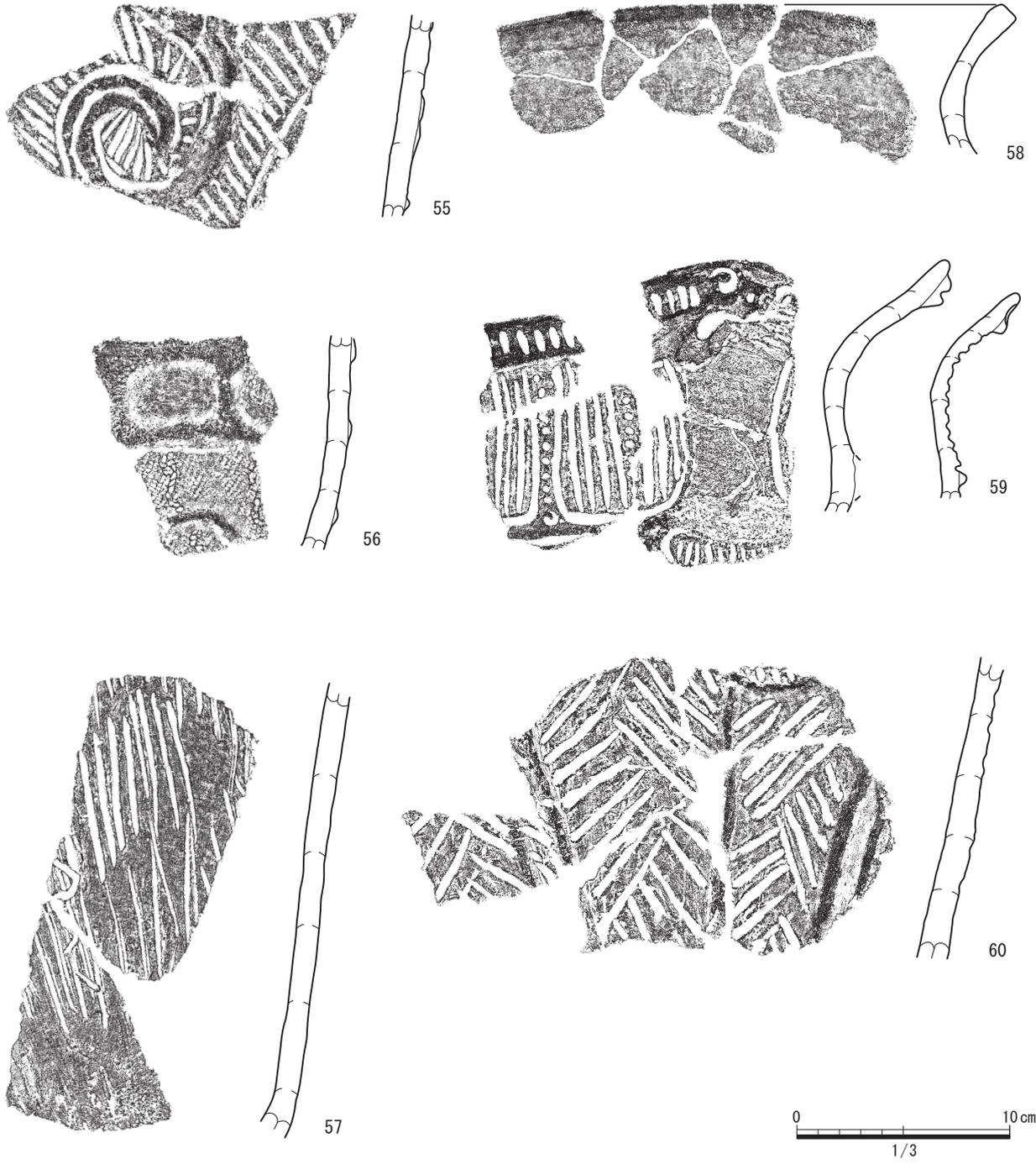
第4图 3号住居跡出土土器



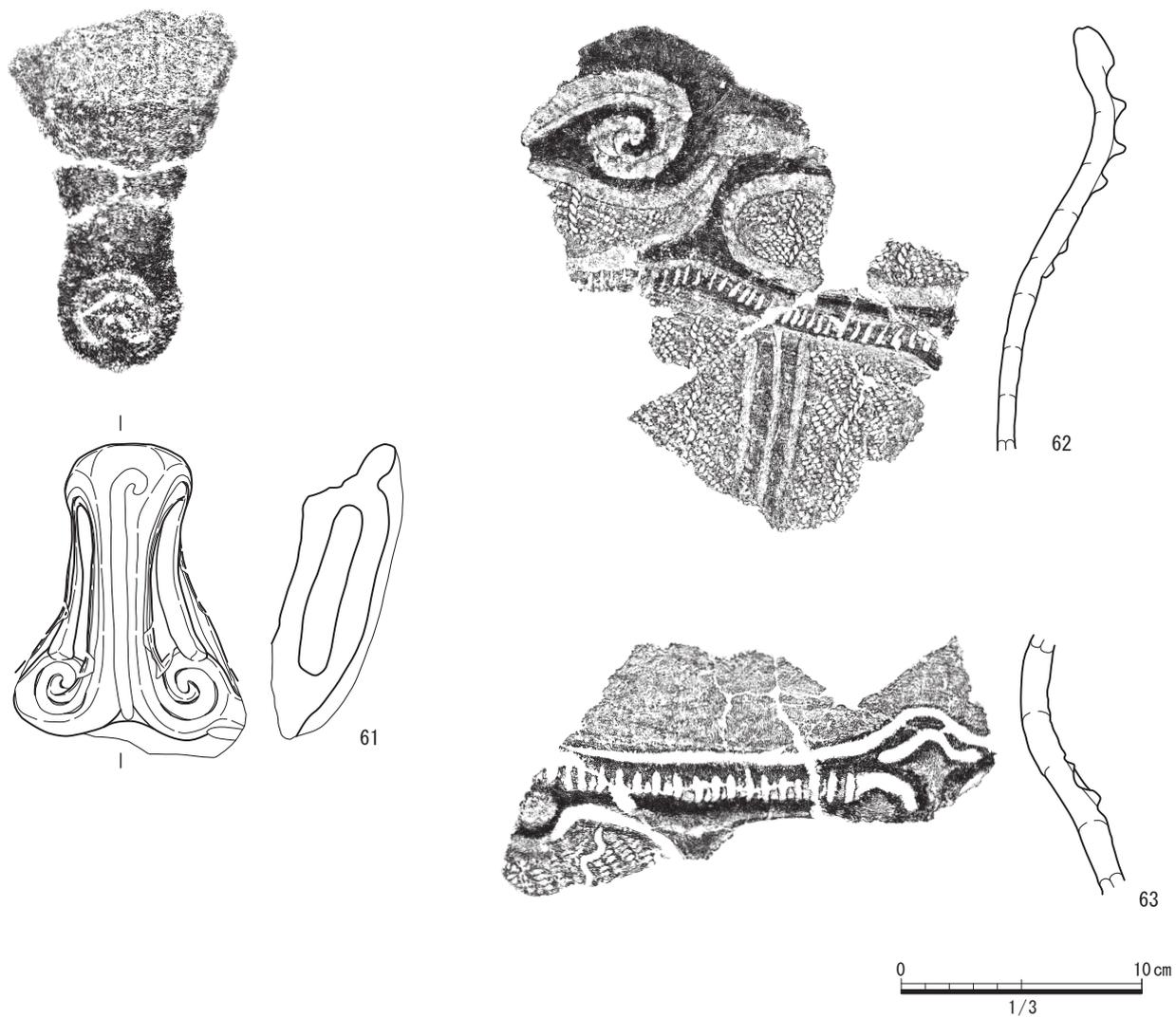
第5图 4号住居跡出土土器



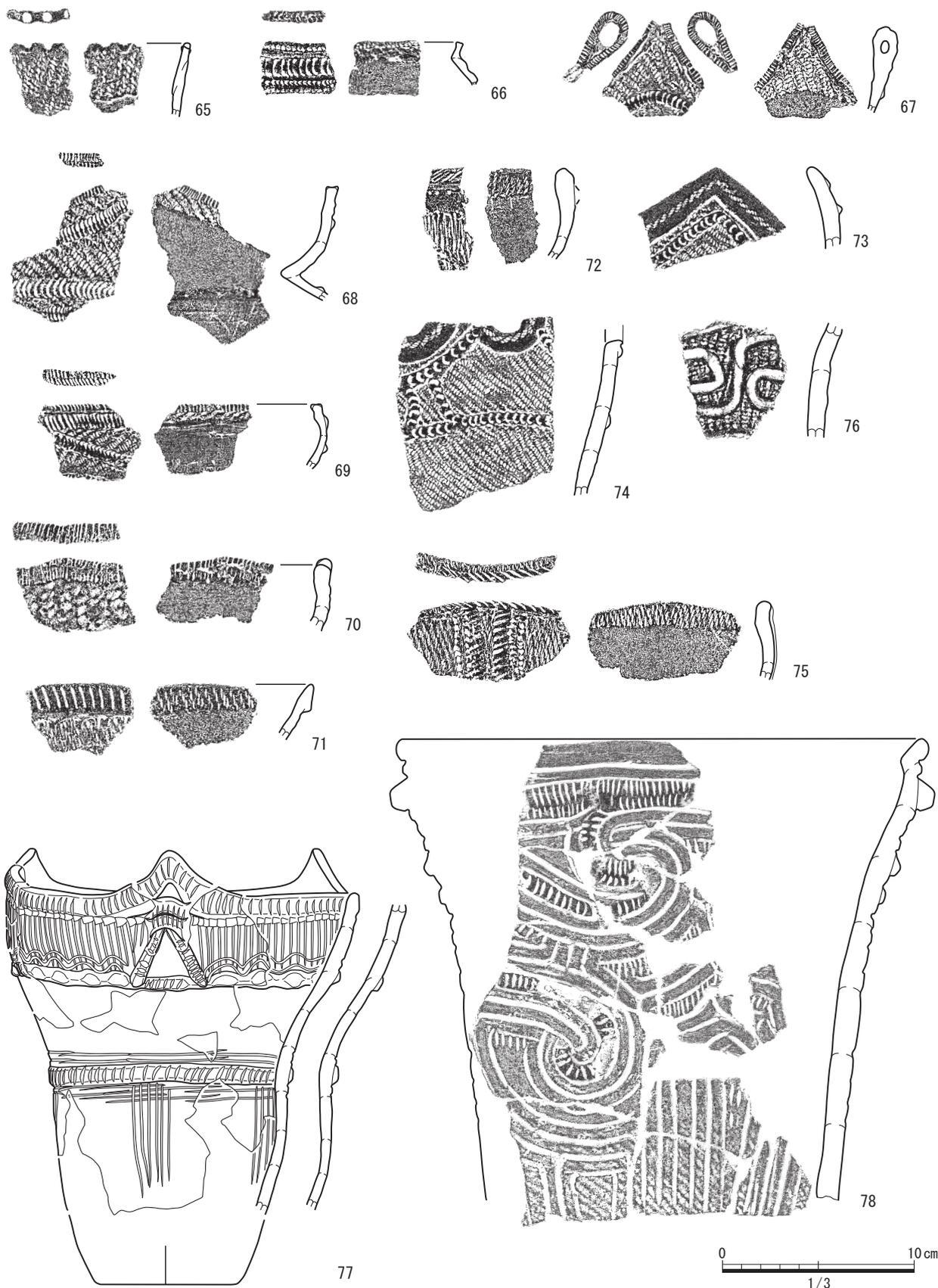
第6图 5号住居跡出土土器①



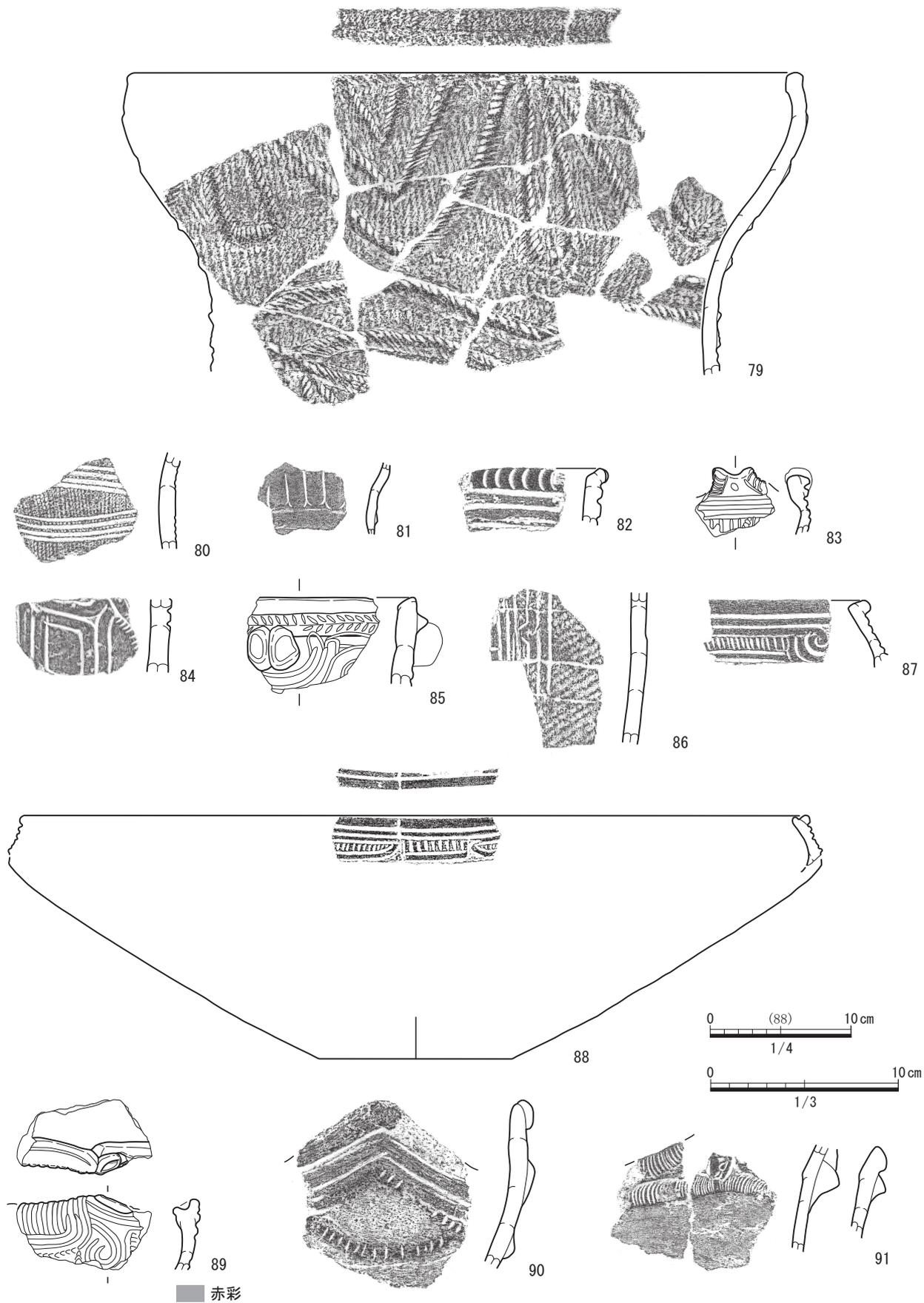
第7图 5号住居跡出土土器②



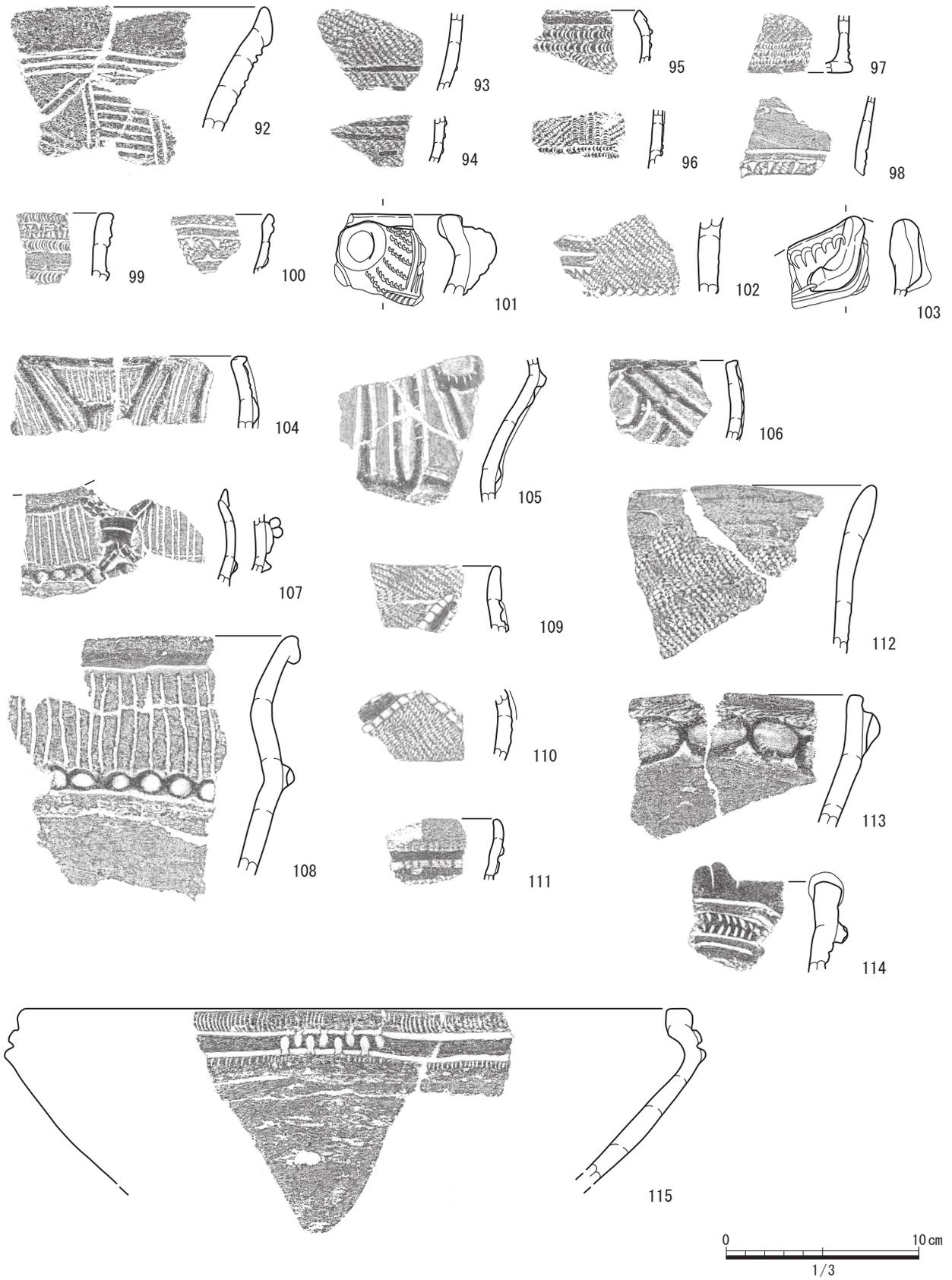
第8图 5号住居跡出土土器③



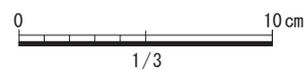
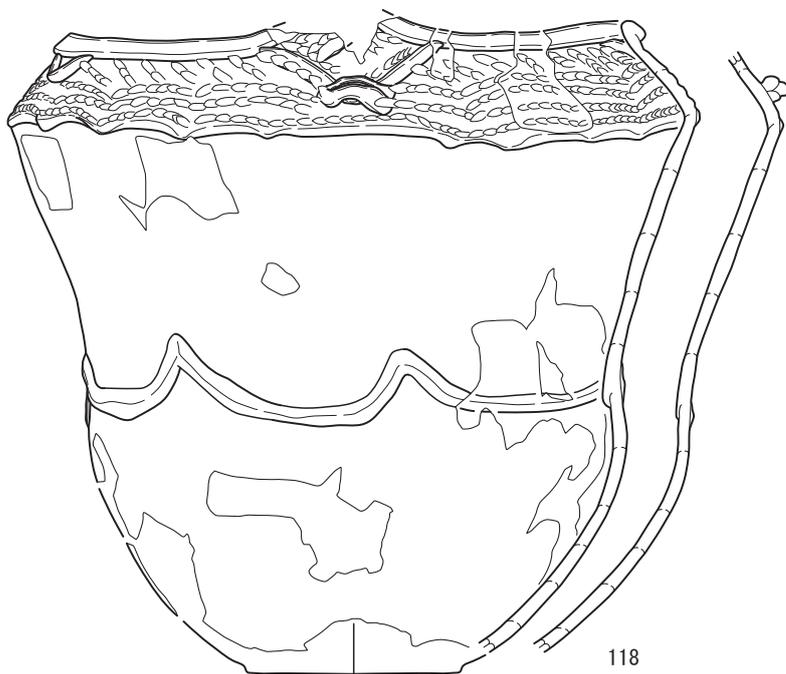
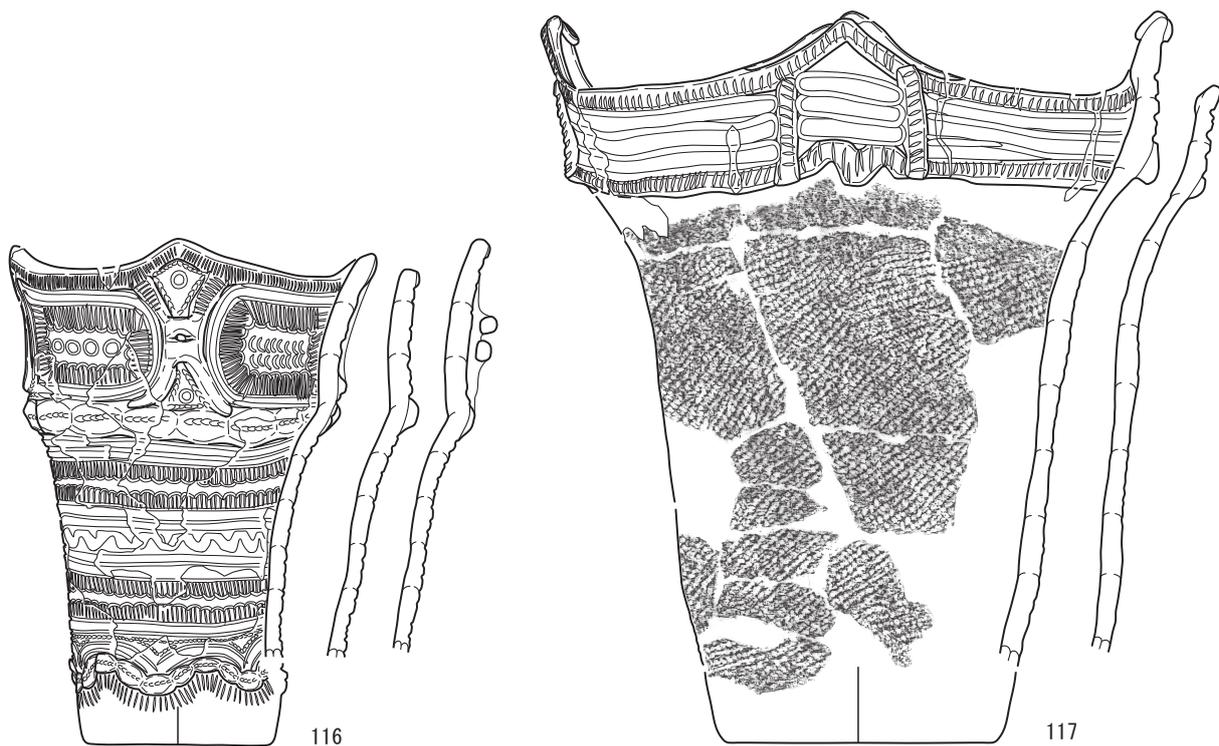
第9图 6号住居跡出土土器①



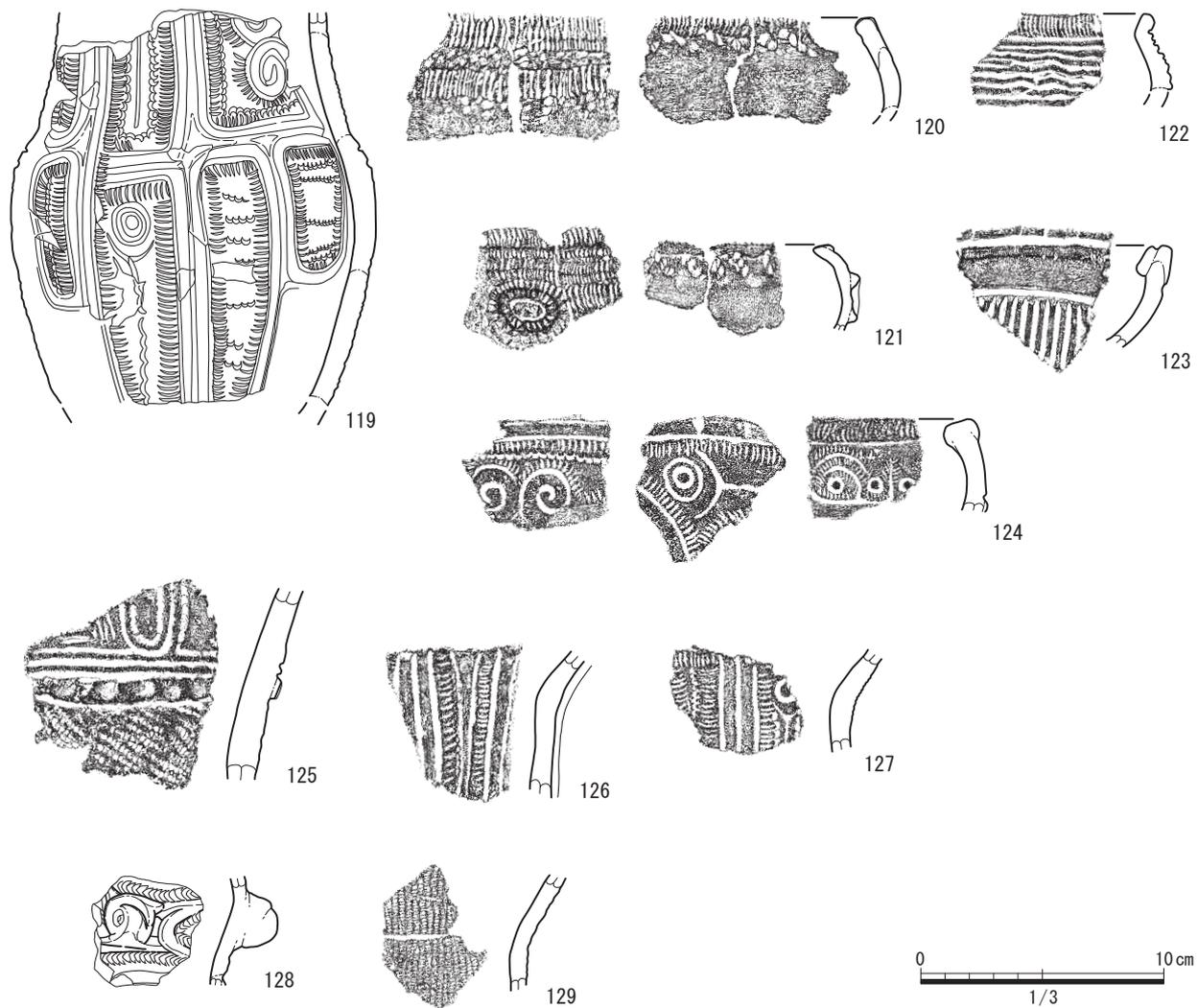
第 10 图 6 号住居跡出土土器②



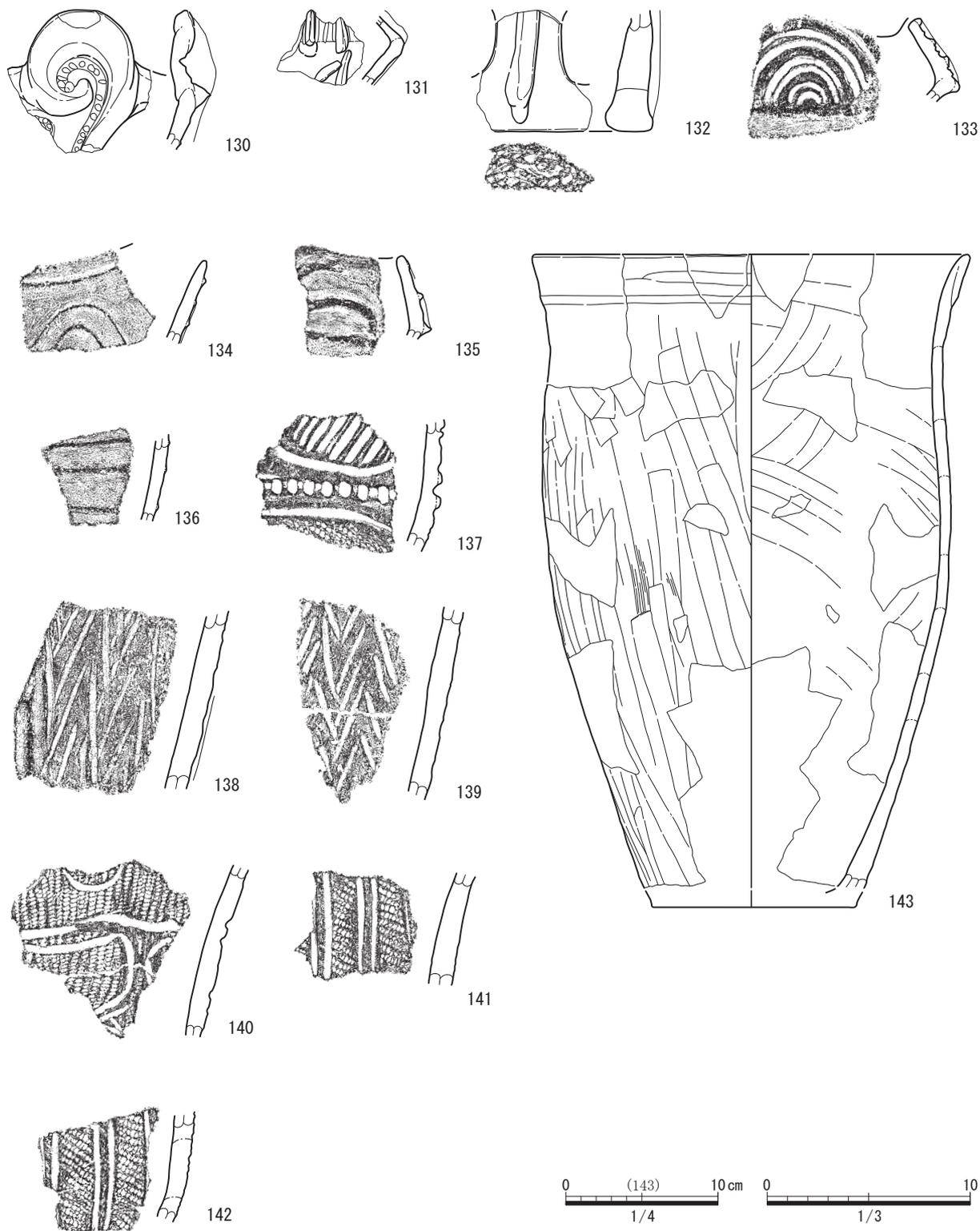
第 11 图 6 号住居跡出土土器③



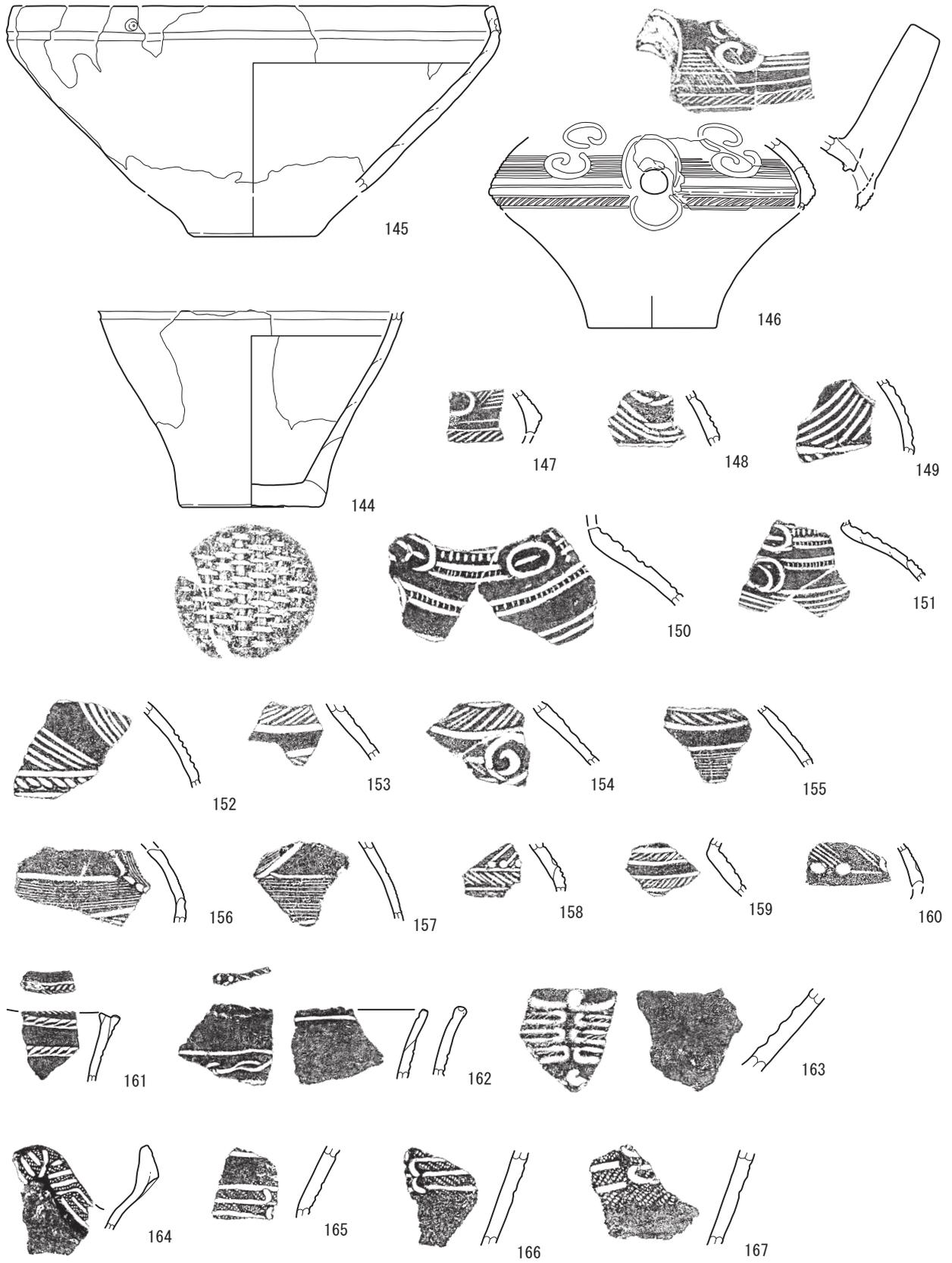
第 12 图 6 号住居跡出土土器④



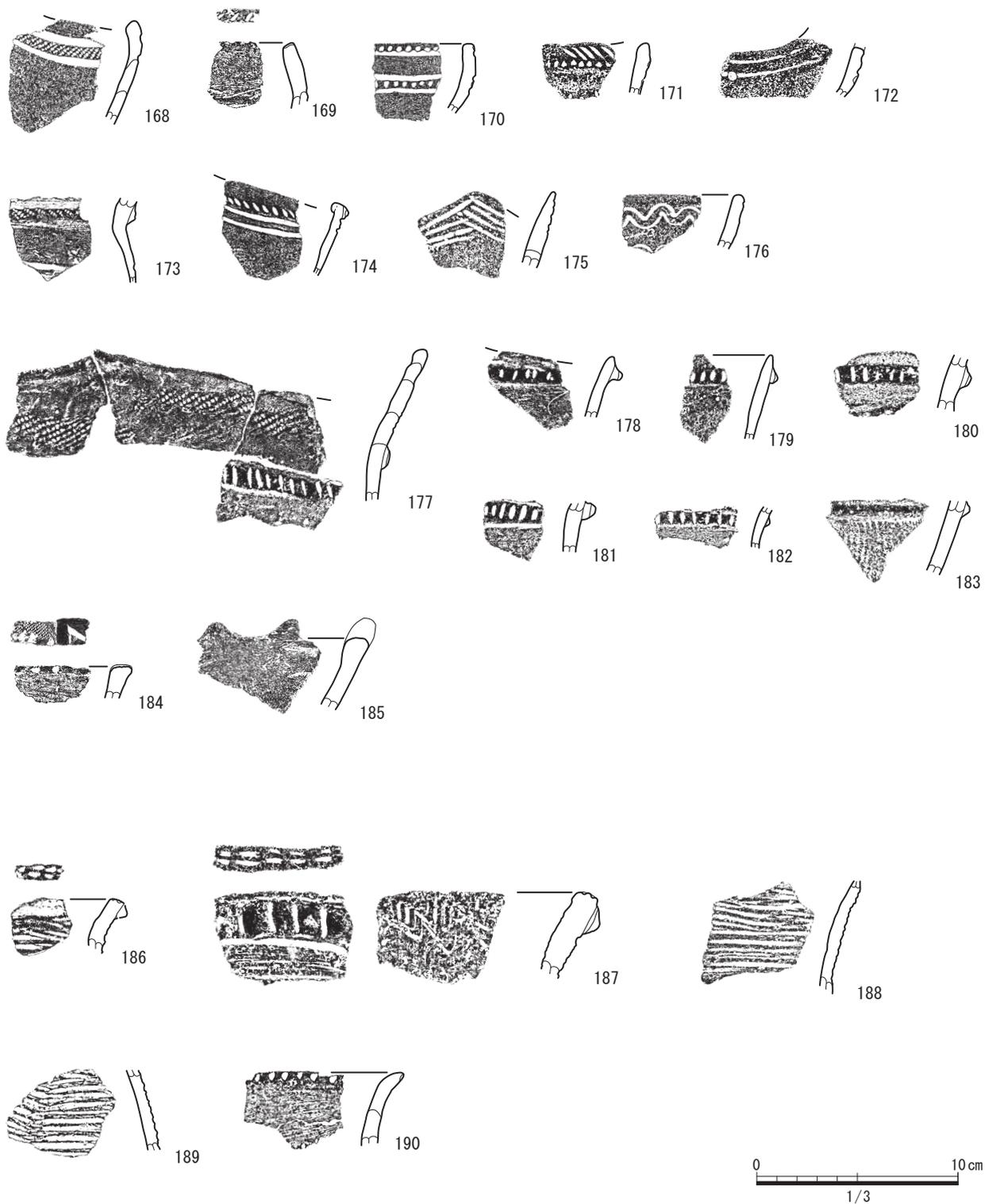
第 13 图 7 号住居跡出土土器



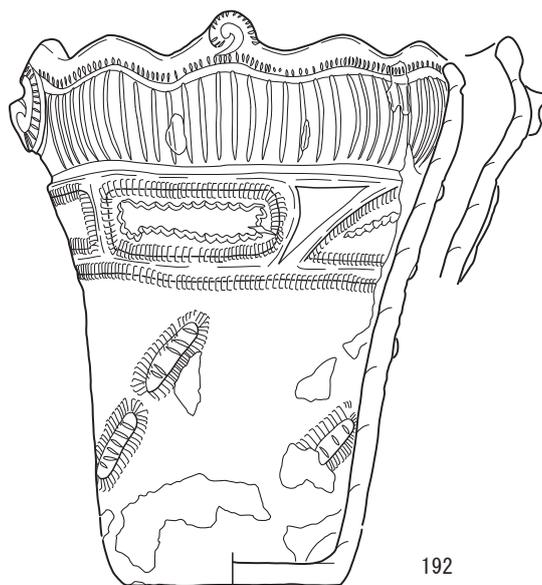
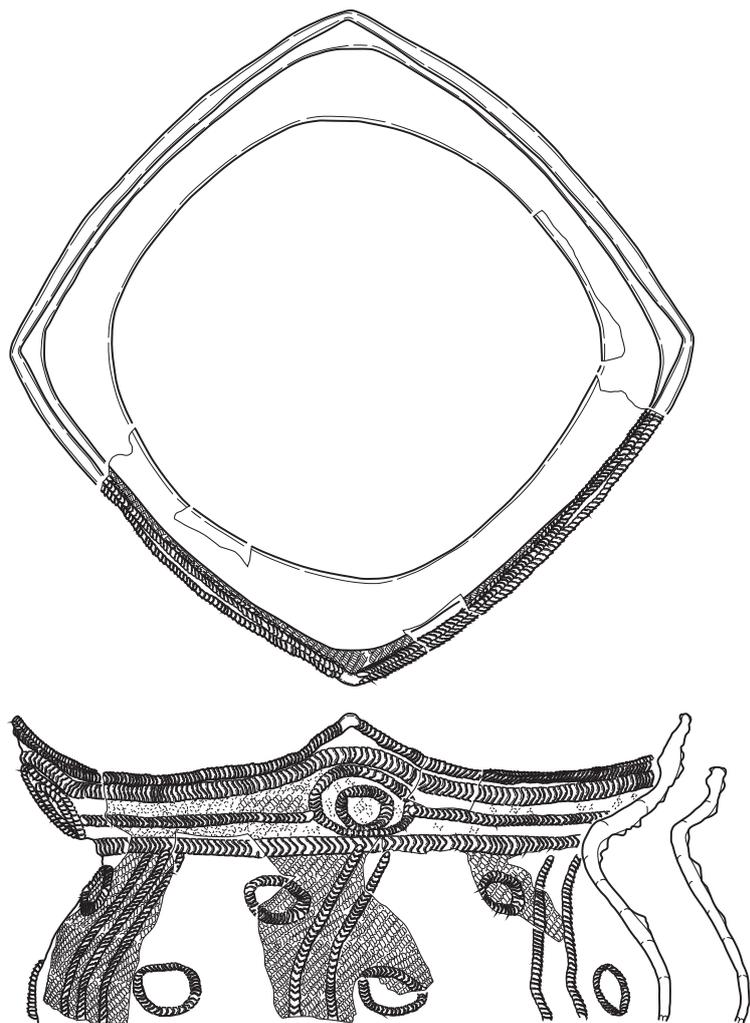
第 14 图 10 号住居跡出土土器



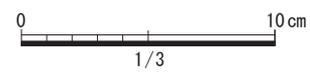
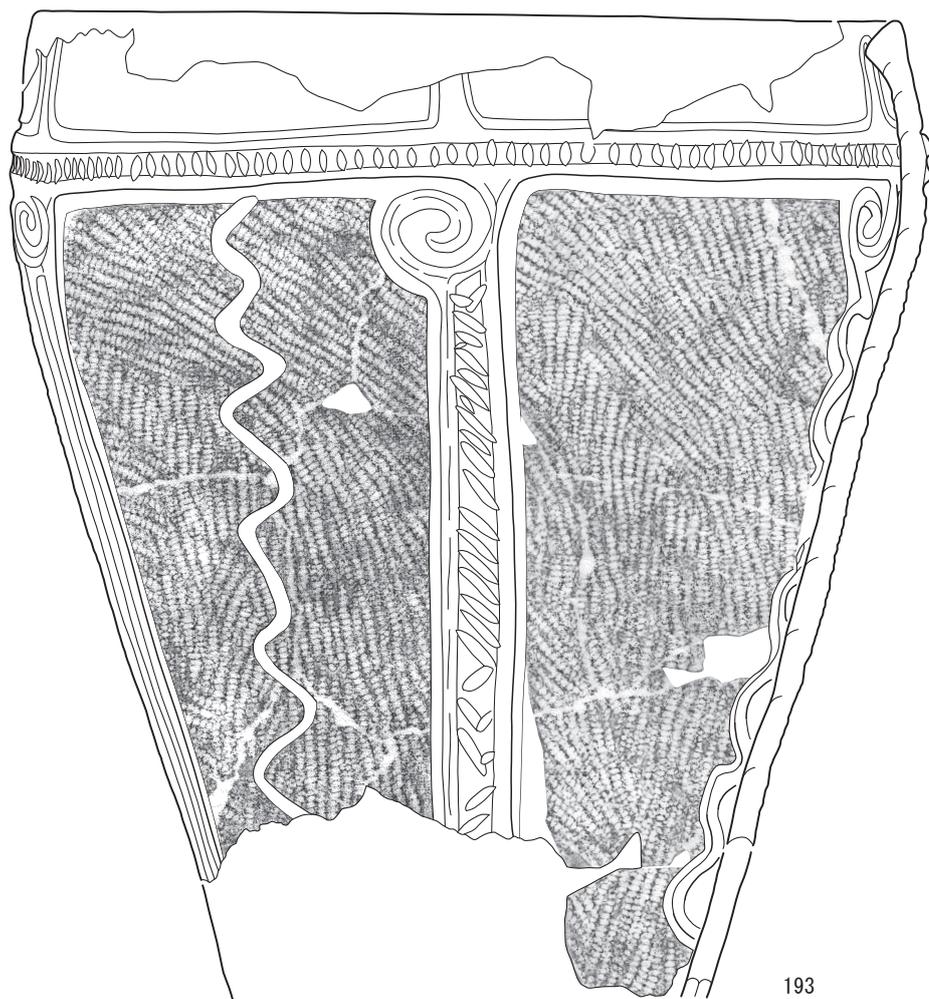
第 15 図 縄文時代後期・晩期土器①



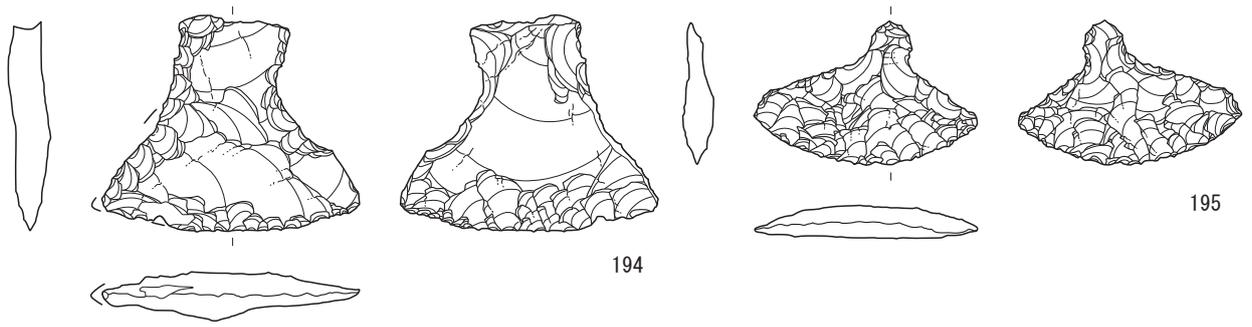
第 16 図 縄文時代後期・晩期土器②と弥生時代土器



第 17 図 グリッド等出土土器①

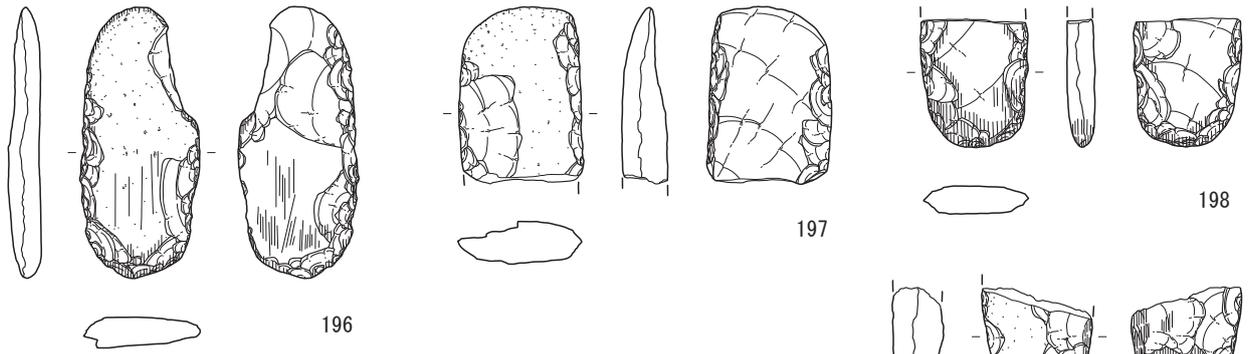


第 18 図 グリッド等出土土器②



194

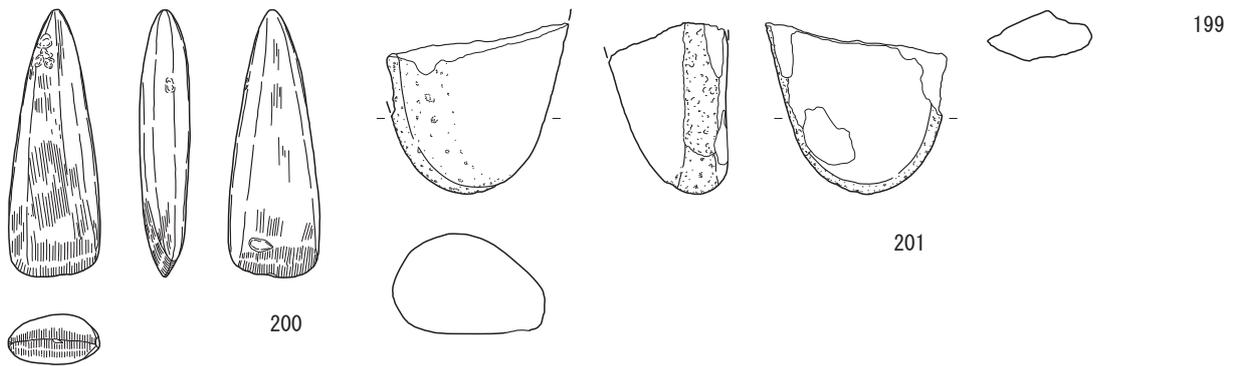
195



196

197

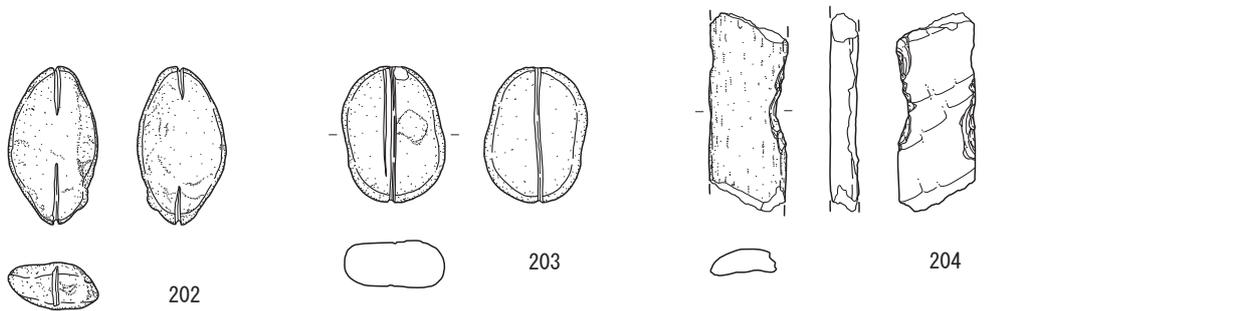
198



199

200

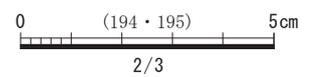
201



202

203

204



2/3



1/3

第 19 图 出土石器

第1表 1号住居跡出土土器観察表①

番号	種類	法量 (cm)			特 徴
		口径	底径	器高	
1	縄文土器 深鉢	(26.6)	—	—	推定4単位の双頭波状口縁。口縁部に横位隆帯を巡らせ、波頂部には形状に沿ってコの字状の隆帯を貼付する。隆帯貼付後、隆帯上面や脇に丸棒状工具による沈線を施文。横位隆帯下は単節RL縄文を斜位施文後、上位に縦位沈線を充填、中位に連繋する工字状文、下位にはコの字状の懸垂文や縦位波状文が施文される。内面は口縁～頸部が横位のミガキ、胴部は横・斜位のナデが施される。外面上半にスス、内面下部と口縁部にコゲが付着する。胎土に石英、チャートを含む。
2	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部に隆帯による懸垂文・渦巻文・縦位波状文が施文された後、丸棒状工具による沈線で綾杉文が充填施文される。また、綾杉文施文後に隆帯間や脇に同様の手法で沈線が施文される。内面は反時計回りの方向に横位のケズリが顕著に観察される。外面にスス、内面にコゲが付着する。胎土に石英、雲母、多量の白色～灰色礫を含む。
3	縄文土器 深鉢	—	—	—	口縁・頸部に2本1組の横位隆帯を巡らせ、推定4単位の楕円形突起を貼付する。隆帯脇には半截竹管状工具(小)による横位の平行沈線が施文され、平行沈線間に同様の工具で上下からの交互刺突文を施文する。また、口縁部の膨らむ部分には懸垂文が充填される。胴部は単節RL縄文を縦・斜位施文後、半截竹管状工具(大)による平行沈線で懸垂文が施文される。内面は横・斜位のナデ。胎土に石英、チャート?を含む。外面は被熱し、スス付着、内面もコゲが付着する。
4a	縄文土器 深鉢	—	—	—	口縁・胴部片。断面三角形の隆帯によるクランク文・懸垂文を施文後、隆帯間に4本歯の櫛歯状工具による条線を充填する。頸部は無文帯(横位のナデ)を持ち、無文帯以下は口縁部と同様の手法で文様が施文される。内面は横位のナデが施される。外面にスス、内面にコゲが付着する。胎土に多量の石英・長石、黒色礫を含む。
4b 4c	縄文土器 深鉢	—	—	—	断面三角形の隆帯による横位の区画文を施文後、三角文・懸垂文を施文し、隆帯間に4本歯の櫛歯状工具による条線が充填される。内面は横位のナデが施される。外面にスス、内面にコゲが付着する。胎土に石英・長石・雲母を含む。4aと別個体。
5	縄文土器 深鉢	—	—	—	口縁部に隆帯による横位区画文を施文し、区画文から渦巻文を羊角状に施文する。隆帯貼付後、隆帯脇に先端円錐状の工具による沈線やキザミ・交互刺突文が施文される。内面は横位のナデが施される。外面ススが付着する。胎土には多量の金雲母、石英、長石が含まれる。
6	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。口縁部に扁平な隆帯で推定円形・楕円形の横位区画文を施文後、隆帯脇に丸棒状工具による沈線を施文し、区画内には斜位の沈線を充填する。内面は口縁部に横位の沈線が施文され、横位のナデが施される。外面に黒斑がみられる。胎土には石英が含まれる。
7	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部に半截竹管状工具による2本1組の結節沈線で入組文を施文後、三角陰刻文が結節沈線に沿って鋸歯状に施文される。内面は斜位のナデが施される。外面にススが付着する。胎土には多量の石英・金雲母が含まれる。
8	縄文土器 深鉢	—	—	—	平口縁。口縁端部に横位の隆帯を貼付後、半截竹管状工具による平行沈線で横位の羽状文が施文される。また、羽状文施文後に同様の手法で隆帯下に横位の平行沈線が施文される。内面は横位のナデが施される。胎土に多量の石英・長石、金雲母、黒色鉱物が含まれる。
9	縄文土器 深鉢	—	(13.0)	—	17・18は同一個体と考えられる。胴部に単節RL縄文が下から上へ向かって横位施文される。胴部下端には棒状工具やナデによる押捺で縦位の凹みが3箇所以上認められる。底部はナデによって調整が施される。内面の胴部下端は外面からの押捺により突出し、全体的に横位のナデが施される。外面胴部を中心に濃いススが付着する。胎土には石英、長石、灰色礫が含まれる。
10	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。口縁部に横位の隆帯を貼付後、隆帯脇に竹管状工具によるキザミを施す。胴部は7～8本歯の櫛歯状工具による縦位の条線が施文される。内面は横位のナデが施される。外面にスス、内面にコゲが付着する。胎土には主に石英が含まれる。

第2表 1号住居跡出土土器観察表②

番号	種類	法量 (cm)			特 徴
		口径	底径	器高	
11	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。口縁部に横位の隆帯を貼付後、隆帯脇や頸部に大小の竹管状工具による押し引き文を施文する。胴部には単節R L縄文が横位施文される。内面は口縁部に外面同様の横位隆帯を貼付し、単節R L縄文を横位施文後、押し引き文が施文される。胴部は横位のケズリ後、横位のナデが施される。胎土には多量の石英・長石が含まれる。
12	縄文土器 深鉢	—	—	—	平口縁。口縁端部に丸棒状工具によるキザミが施される。口縁部には単節L R縄文が横位施文される。内面は口縁部が肥厚し、肥厚部に単節L R縄文が横位施文される。胴部は横位のナデが施される。胎土には多量の石英・長石、赤色粒が含まれる。
13	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。口縁部竹管状工具による結節浮線手法で横位区画文・山形文が施文される。内面は横位のナデ・ミガキを施す。外面と内面口縁部に濃いススが付着する。胎土には主に石英が含まれる。
14	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。口縁部に横位の隆帯を貼付し、その上面には竹管状工具によるキザミが施される。口縁部以下は単節R L縄文を縦・斜位施文した後、丸棒状工具による横位の沈線が施文される。内面は口縁部に横位の沈線が施文され、横位のナデ・ミガキが施される。外面～内面口縁部にススが付着する。胎土には石英、黒色礫、多量の白色粒が含まれる。
15	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。口縁部に横位の隆帯を貼付後、隆帯脇に丸棒状工具による刺突列点文を施文する。口縁部以下は単節R L縄文を斜位施文後、口縁部と同様の工具による縦位沈線文を充填する。内面は横位のナデが施される。外面にスス、内面にコゲが付着する。胎土には石英・長石が含まれる。胎土には石英、黒色礫、多量の白色粒が含まれる。
16	縄文土器 深鉢	—	—	—	双頭波状口縁。口縁部に横位隆帯を巡らせ、波頂部は形状に沿ってコの字状の隆帯を貼付する。口縁部隆帯間には丸棒状工具や竹管状工具による刺突列点文が施文される。口縁部以下は単節R L縄文を縦・斜位施文後、丸棒状工具による沈線で横位区画文・クランク状文が施文される。内面は口縁部に丸棒状工具による横位沈線が施文され、横位のミガキが施される。外面は被熱し、ススが付着する。胎土には石英、長石、チャート、黒色礫、黒色鉱物が含まれる。
17	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。口縁部に隆帯による横位区画文・橋状把手が貼付される。隆帯・把手貼付後、丸棒状工具による沈線が隆帯脇に施文され、区画内には同様の手法で弧状文・縦位波状文・蕨手状文・刺突文が施文される。また、口縁部隆帯上部や把手上面に先端が円錐状の工具により刺突列点文が施文される。内面は口縁部に横位の沈線が施文され、横位のナデ・ミガキが施される。外面にススが付着する。胎土には石英、多量の白色粒、赤色粒を含む。
18	縄文土器 深鉢	—	—	—	透かし穴を持つ。透かし孔間に扁平な垂下隆帯を貼付し、全体的にナデ調整が施される。内面は横・斜位のナデが施される。胎土には石英、長石、チャートが含まれる。
19	縄文土器 深鉢	—	(9.6)	—	体部無文。底面に網代痕。胎土には白色粒・石英・チャートが含まれる。

第3表 3号住居跡出土土器観察表

番号	種類	法量 (cm)			特 徴
		口径	底径	器高	
21	縄文土器 深鉢	—	8.2	—	キャリバー形。口縁部文様帯、低い隆帯と太く浅い沈線による渦巻文。口頸部、列点刺突文を伴う太く浅い沈線。地文として、横位回転押捺による単節縄文LR。胴部文様帯、H字状の懸垂文に一部列点刺突文が加わる。地文として、縦位回転施文によるの無節縄文L。途中の渦巻の上が2本、下が1本になる縦位隆帯を交互に配置。

第4表 4号住居跡出土土器観察表①

番号	種類	法量 (cm)			特 徴
		口径	底径	器高	
22	縄文土器 深鉢	(21.2)	—	—	推定4単位の双頭波状口縁。口縁部単節RL縄文を横・斜位施文後、口端部と口縁部に丸棒状工具による弧状のキザミ隆帯が貼付される。内面は横・斜位のナデ。胎土には石英・チャート・赤色粒が含まれる。
23	縄文土器 深鉢	(16.6)	—	—	推定4単位の波状口縁。口縁部単節RL縄文を横・斜位施文後、口端部に沿って隆帯を貼付し、波頂部下には隆帯による円文ないし渦巻文が施文される。隆帯脇にはΣ字状の押し文が施文される。内面は横位のナデ。胎土には石英・長石・チャートが含まれる。
24	縄文土器 深鉢	—	—	—	推定双頭波状口縁。口縁部横位のナデの後、隆帯による区画文が貼付され、隆帯脇に丸棒状工具による沈線が施文される。同様の手法で頸部には重四角文と推定される文様が施文される。沈線施文後には隆帯上面・沈線文間に単節LR縄文が横位施文される。内面は横位のナデ。胎土には石英・多量の凝灰岩粒が含まれる。
25	縄文土器 深鉢	—	—	—	推定双頭波状口縁。口縁部に隆帯による楕円形の区画文を施文後、隆帯に丸棒状工具によるキザミを施し、区画内には単節RL縄文が施文される。内面は横・斜位のナデ。胎土には石英・チャートが含まれる。
26	縄文土器 深鉢	—	—	—	平口縁。口縁部横位のナデの後、半截竹管状工具による横位の平行沈線を施文。内面はナデ。指頭圧痕が見られる。胎土には石英・雲母・凝灰岩粒・赤色粒が含まれる。
27	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部横位のキザミ隆帯を貼付した後、丸棒状工具による沈線と先端を加工した竹管状工具による三角押文で重三角のモチーフを描く。内面は横位のナデ。胎土には石英・チャート・赤色粒が含まれる。
28	縄文土器 深鉢	—	—	—	平口縁。口唇部に三角形の小突起が付される。口縁部半截竹管状工具による結節浮線で直線・波状のモチーフを描く。内面は横位のミガキ。胎土には石英・多量の白色粒が含まれる。
29	縄文土器 深鉢	—	—	—	平口縁。口縁部横位のナデの後、横位の隆帯を貼付。隆帯には半截竹管状工具による矢羽状のキザミが施される。隆帯脇には同様の工具で横位の平行沈線、隆帯下にはJ字状や三角形のモチーフが描かれる。内面は横位のナデ。胎土には多量の石英・多量の雲母が含まれる。
30	縄文土器 深鉢	—	—	—	平口縁。口縁部ナデの後、横位の隆帯を貼付し、隆帯脇には丸棒状工具による沈線、隆帯上面には竹管状工具によるキザミが施される。内面は横位のナデ。胎土には多量の金雲母・白色粒が含まれる。
31	縄文土器 深鉢	—	—	—	平口縁。口唇部に先端の細い丸棒状工具による刺突文を施文。口縁部には単節RL縄文を横位施文後、口縁端部付近に丸棒状工具による刺突列点文を施文。口縁部には断面カマボコ状の細隆帯による直線文・山形文を施文。内面は丁寧な横位のナデ。胎土には石英・雲母が含まれる。
32	縄文土器 深鉢	—	—	—	平口縁。口唇部から口端部にかけて半截竹管状工具による爪形文が施文される。口端部以下には太い単節RL縄文を横位施文後、断面三角形の横位隆帯を貼付し、隆帯上面に竹管状工具による爪形文(C字状文)が施文される。内面は丁寧な横位のナデ。胎土には石英・白色粒が含まれる。
33	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部単節LR縄文を横・斜位施文後、上位には横位の指頭押捺隆帯を貼付し、その直下にはソーメン状の細隆帯を縦・横位に貼付。内面は横位のナデ。胎土には石英・赤色粒が含まれる。

第5表 4号住居跡出土土器観察表②

番号	種類	法量 (cm)			特 徴
		口径	底径	器高	
34	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部単節 LR 縄文を横位施文後、丸棒状工具による横位の沈線を3条施文。内面は丁寧な横・斜位のナデ。胎土には多量の石英・多量の雲母が含まれる。
35	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部単節 RL 縄文を斜位施文後、断面カマボコ状の横位隆帯を貼付し、隆帯上面には竹管状工具によるキザミを施す。内面はヨコ・斜位のナデ。胎土には石英・凝灰岩粒が含まれる。
36	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部下端単節 RL 縄文を横位施文後、横位の隆帯を貼付。胴部には細隆帯による山形文を施文後、隆帯脇に細い竹管状工具による押引文が施文される。底部ナデ。内面は横位のナデ。胎土には多量の石英・雲母が含まれる。
37	縄文土器 深鉢	—	—	—	平口縁。口端部に半截竹管状工具によるC字状文・爪形文を施文。口縁部は単節 RL 縄文を横位施文後、断面三角形の横位隆帯を貼付し、隆帯上面に竹管状工具による爪形文を施文。内面は単節 RL 縄文を横位施文後、外面と同様の工具で爪形文を施文。胎土には石英・片岩が含まれる。
38	縄文土器 深鉢	—	—	—	推定波状口縁。口縁部隆帯による楕円形の区画文を施文後、茎束状工具による縦位の細条痕文を施文。内面は斜位のナデ。胎土には石英・凝灰岩粒が含まれる。
39	縄文土器 深鉢	—	—	—	平口縁。口端部には横位のミガキが施される。口縁部直下には丸棒状工具による沈線で横位の区画文が施文され、区画内には単節 LR 縄文が横位充填施文される。内面は横位のミガキ。胎土には石英・多量の白色粒が含まれる。
40	縄文土器 深鉢	31.8	10.6	39.8	キャリバー形。断面の丸い、太い沈線による文様。口唇部直下に横位沈線1条が周回。口縁部文様帯、二重又は三重の沈線による円形文、その中に、10個前後の円形刺突文。沈線・刺突文とも、同一の竹管状工具によるものとみられる。胴部、2本1対の蕨手状懸垂文が、口縁部の円形文に対応して垂下。懸垂文の間に、綾杉文が充填される。

第6表 5号住居跡出土土器観察表①

番号	種類	法量 (cm)			特 徴
		口径	底径	器高	
41	縄文土器 深鉢	—	14.6	—	体部文様帯は単節 RL 縄文施文後2本1組の縦位・斜位隆帯貼付。底面に網代痕。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
42	縄文土器 台付深鉢	—	(15.0)	—	楕円形状の孔が4単位配されるものと想定される。孔間には丸棒状工具による楕円形状沈線が施される。接地部には単節縄文が施される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
43	縄文土器 台付深鉢	—	(9.0)	—	楕円形状の孔が4単位配されるものと想定される。孔間には丸棒状工具による縦位・楕円形状沈線が施される。接地部には単節縄文が施される。胎土には白色粒・石英・黒色鉱物が含まれる。
44	縄文土器 深鉢	—	—	—	横位隆帯貼付後丸棒状工具による横位・斜位・端部蕨手状の沈線が施される。隆帯頂部には丸棒状工具による腕骨状の沈線・先細の棒状工具による斜位沈線が施される。胎土には白色粒・チャート・黒色粒が含まれる。
45	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁と想定される。口縁部文様帯には連続刺突が施される斜位隆帯貼付後単節 RL 縄文施文後丸棒状工具による縦位沈線が充填される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
46	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。波頂部には橋状把手が派生するものと想定される渦巻状の突起が付される。口縁部文様帯は橋状把手下端から派生する斜位隆帯により区画され、区画内には丸棒状工具による斜位沈線が施される。内面波頂部には丸棒状工具による渦巻状沈線が施される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
47	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。波頂部には孔が穿たれる。口縁部文様帯は波頂部より垂下する刻みを有する隆帯・口縁形状に沿った斜位隆帯により区画され、隆帯脇に丸棒状工具による沈線が施される。体部文様帯は単節 RL 縄文施文後丸棒状工具による縦位沈線が施される。胎土には白色粒・石英・チャート・黒色鉱物が含まれる。
48	縄文土器 深鉢	—	—	—	小波状口縁と想定される。口縁部文様帯は環状・斜位隆帯貼付後丸棒状工具による環状・縦位沈線、連続刺突文が施される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。

第7表 5号住居跡出土土器観察表②

番号	種類	法量 (cm)			特 徴
		口径	底径	器高	
49	縄文土器 深鉢	-	-	-	波状口縁。口縁部文様帯は幅狭で口縁形状に沿った隆帯により区画され、区画内に丸棒状工具による縦位沈線が連続的に施される。体部文様帯は口縁部文様帯の隆帯から派生する縦位隆帯で区画後単節R L縄文施文後丸棒状工具による縦位・斜位・弧状沈線が施される。胎土には白色粒・石英・チャート・黒色鉱物が含まれる。
50	縄文土器 深鉢	-	-	-	平縁口縁。口縁下に横位隆帯貼付後連続刺突文が施される。横位隆帯下の区画には角棒状工具による縦位・弧状沈線が施される。胎土には白色粒・チャート・黒色鉱物が含まれる。
51	縄文土器 深鉢	-	-	-	平縁口縁。口縁部文様帯に丸棒状工具による縦位・蛇行垂下沈線が施される。胎土には白色粒・チャート・黒色鉱物が含まれる。
52	縄文土器 深鉢	-	-	-	口縁部文様帯は脇に幅広沈線を有する弧状隆帯により区画されるものと想定される。口縁部文様帯の最下端にあたる隆帯頂部には連続刺突文が施される。体部文様帯は単節L R縄文施文後丸棒状工具による縦位沈線が施される。胎土には白色粒・石英・チャート・黒色鉱物・雲母が含まれる。
53	縄文土器 深鉢	-	-	-	口縁部文様帯は刻みを有する縦位隆帯、横位隆帯で区画され、区画内に隆帯に沿った刺突文・幅広沈線が施される。体部文様帯は頂部に丸棒状工具による沈線が施される渦巻・弧状隆帯貼付後丸棒状工具による斜位沈線・横位蛇行沈線施文後隆帯脇に丸棒状工具による沈線が施される。胎土には白色粒・石英・チャートが含まれる。
54	縄文土器 深鉢	-	-	-	体部文様帯は横位・弧状隆帯により区画され、区画内に丸棒状工具による縦位沈線が施される。横位隆帯脇には丸棒状工具による連続刺突文・沈線、弧状隆帯頂部・脇には丸棒状工具による沈線が施される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
55	縄文土器 深鉢	-	-	-	頂部に丸棒状工具による沈線が施される渦巻状・斜位隆帯貼付後空白部に丸棒状工具による沈線を充填後隆帯脇に丸棒状工具による沈線が施される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
56	縄文土器 深鉢	-	-	-	口縁部文様帯は隆帯により楕円形状に区画され、区画内は無文。体部文様帯は弧状隆帯貼付後単節R L結束縄文が施される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
57	縄文土器 深鉢	-	-	-	角棒状工具による縦位沈線充填後蛇行垂下沈線が施される。胎土には白色粒・チャート・石英が含まれる。
58	縄文土器 深鉢	-	-	-	平縁口縁。残存部位に限り無文。胎土には白色粒・チャート・雲母が含まれる。
59	縄文土器 深鉢	-	-	-	波状口縁。波頂部から2本1組の橋状把手が付される。口縁下には丸棒状工具による縦位短沈線・蕨手状沈線・刺突文が施される。口縁部文様帯は口縁形状に沿った隆帯と横位隆帯で区画後区画内を丸棒状工具による沈線で「U」字状にさらに区画する。「U」字状区画内は丸棒状工具による縦位沈線・連続刺突文で加飾し、区画間には丸棒状工具による連続刺突文を縦位に充填し下端部のみ蕨手状の沈線で飾る。体部文様帯丸棒状工具による沈線で区画し、区画内を縦位沈線で加飾するものと想定される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
60	縄文土器 深鉢	-	-	-	平縁口縁。口縁部文様帯に丸棒状工具による縦位・蛇行垂下沈線が施される。口縁部文様帯は弧状の隆帯で区画後区画内に丸棒状工具による縦位沈線が施されるものと想定される。体部文様帯は2本1組の縦位隆帯貼付後丸棒状工具による矢羽状沈線が施される。2本1組の隆帯間は無文。胎土には白色粒・チャート・黒色鉱物が含まれる。
61	縄文土器 深鉢	-	-	-	波頂部に付される突起。突起は橋状を呈し、丸棒状工具による端部蕨手状の沈線で飾る。突起頂部内面に丸棒状工具による弧状沈線が施される。胎土には白色粒・石英・チャート・黒色鉱物が含まれる。
62	縄文土器 深鉢	-	-	-	波状口縁。口縁部文様帯は渦巻状・楕円形状・弧状隆帯で区画後区画内位に単節L R結束縄文施文後隆帯脇に幅広沈線が施される。体部文様帯は単節L R縄文結束縄文施文後丸棒状工具による3本1組の縦位沈線が施される。沈線間は無文。口縁部と体部を区画する隆帯は2本1組で、隆帯間には連続刻みが施される。胎土には白色粒・チャート・雲母が含まれる。
63	縄文土器 深鉢	-	-	-	口縁部無文。口縁部と体部は端部が渦巻状を呈する2本1組の横位隆帯で画される。2本1組の隆帯は丸棒状工具による縦位短沈線や横位・弧状沈線で飾られる。体部文様帯は横位隆帯より派生する環状隆帯貼付後丸棒状工具による沈線で逆「U」字状にない楕円形状に区画されるものと想定される。区画内には単節L R縄文施文後丸棒状工具による垂下蛇行沈線が施される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。

第8表 6号住居跡出土土器観察表①

番号	種類	法量 (cm)			特 徴
		口径	底径	器高	
65	縄文土器 深鉢	—	—	—	平縁口縁。口唇部に丸棒羽状工具による連続押圧が施される。口縁部に0段多条LR縄文が施される。内面口縁下に0段多条LR縄文が施される。胎土には白色粒・石英・チャートが含まれる。
66	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁か？口唇部内外面に半截竹筒状工具による連続Σ字状刺突文が施される。口縁部文様帯は横位連続Σ字状刺突文により区画され、区画内に半截竹筒状工具による連続爪形文が施される。内面口縁下に単節RL縄文を施文か？。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
67	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。波頂部は橋状を呈し、両端部に半截竹筒状工具による「V」字状の連続刻みが施される粘土紐が付される。口縁部文様帯は0段多条RL縄文施文後C字状特殊突帯文が弧状に付される。波頂部内面には0段多条RL縄文が施される。胎土には白色粒・石英・チャートが含まれる。
68	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。口唇部両端に半截竹筒状工具による「V」字状の連続刻みが施される粘土紐が付される。口縁部と体部は横位連続爪形文で画される。口縁部文様帯は0段多条RL縄文施文後C字状特殊突帯文が斜位に付される。体部文様帯は0段多条RL縄文施文後字状特殊突帯文が斜位に付される。内面口縁下には0段多条RL縄文が施される。胎土には白色粒・石英・チャートが含まれる。
69	縄文土器 深鉢	—	—	—	平縁口縁。口唇部両端に半截竹筒状工具による「V」字状の連続刻みが施される粘土紐が付される。口縁部文様帯は0段多条LR縄文施文後横位C字状特殊突帯文・斜位Σ字状特殊突帯文が付される。内面口縁下には0段多条LR縄文が施される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
70	縄文土器 深鉢	—	—	—	小波状口縁。口唇部両端に半截竹筒状工具による「V」字状の連続刻みが施される粘土紐が付される。口縁部文様帯は単節RL縄文施文後口縁下に連続刻みが施される。内面口縁下には単節RL縄文が施される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
71	縄文土器 深鉢	—	—	—	平縁口縁。口縁部肥厚。口縁下に連続爪形文が施される。口縁部文様帯に疑縄文？が施される。内面口縁下に疑縄文？が施される。胎土には白色粒・石英・チャート・雲母が含まれる。
72	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁？口唇部に連続刻みが施される。口縁部文様帯に貝殻によるロッキング文が施される。横位隆帯剥落。内面口縁下に無節Lの撚糸文か？。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
73	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。口縁部文様帯は0段多条RL縄文施文後口縁形状に沿った隆帯を貼付。上位隆帯脇には0段多条RL縄文の撚糸側面圧痕、下位隆帯には半截竹筒状工具による「C」字状の連続刺突文（C字状特殊突帯文）が施される。胎土には白色粒・石英・チャート・黒色鉱物が含まれる。
74	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。口縁部と体部は横位C字状特殊突帯文により画される。口縁部文様帯は0段多条RL縄文施文後0段多条RL縄文の撚糸側面圧痕が施される弧状隆帯・斜位・弧状C字状特殊突帯文が施される。波頂部下には環状の孔が穿たれるものと想定される。体部文様帯には0段多条RL縄文が施される。胎土には白色粒・石英・チャート・黒色鉱物が含まれる。
75	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。口唇部に連続刻みが施される。口縁部文様帯は1撚紐の撚糸施文後刻みを有する2本1組の縦位隆帯が口唇部より付される。隆帯脇には連続Σ字状刺突文が施される。内面口縁下には1撚紐の撚糸文が施される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
76	縄文土器 深鉢	—	—	—	0段多条LR縄文施文後丸棒状工具による「コ」の字状・クランク状の沈線が施される。胎土には白色粒・チャート・黒色鉱物が含まれる。
77	縄文土器 深鉢	(18.5)	—	—	3単位波状口縁と想定される。口縁部と頸部は指頭押圧が施される横位隆帯で画される。口縁部文様帯は波頂部下に配される交点に2本の粘土紐が付される斜位隆帯により区画され、隆帯頂部には刻みが施される。区画内には半截竹筒状工具による縦位平行沈線施文後隆帯脇に丸棒状工具による押引文・半截竹筒状工具による波状平行沈線が施される。口縁下には連続爪形文が施される。頸部と体部は連続爪形文が施される横位隆帯により画され、隆帯脇には半截竹筒状工具による平行沈線が施される。頸部無文。体部文様帯には横位隆帯から垂下する半截竹筒状工具による平行沈線が施される。胎土には白色粒・チャート・雲母・黒色鉱物が含まれる。

第9表 6号住居跡出土土器観察表②

番号	種類	法量 (cm)			特 徴
		口径	底径	器高	
78	縄文土器 深鉢	(27.6)	—	—	平縁口縁。口縁部と体部は刻みを有する横位隆帯で画される。口縁部文様帯には半截竹管状工具による横位平行沈線が施される。体部文様帯上位には刻みを有する「S」字状・渦巻き状の隆帯貼付後半截竹管状工具による横位・斜位・弧状平行沈線が施され、一部空白部に刻みが施される。体部文様帯下位には単節縄文施文後半截竹管状工具による縦位平行沈線が施される。胎土には白色粒・チャート・雲母が含まれる。
79	縄文土器 深鉢	(36.0)	—	—	平縁口縁。口縁部文様帯には無節L縄文、「V」字状・「U」字状の隆帯を交互配列後隆帯脇に三角押文が施される。口縁部文様帯と体部文様帯は脇に三角押文が施される2本1組の横位波状隆帯により画される。体部文様帯には無節L縄文斜位隆帯貼付後隆帯脇に三角押文が施される。内面口縁には無節L縄文が施される。胎土には白色粒・石英・チャート・雲母が含まれる。
80	縄文土器 深鉢	—	—	—	無節L縄文施文後半截竹管状工具による横位・弧状平行沈線が施される。胎土には白色粒・石英・チャート・雲母が含まれる。
81	縄文土器 深鉢	—	—	—	横位隆帯貼付後半截竹管状工具による縦位平行沈線が施される。胎土には白色粒・石英・チャート・黒色鉱物が含まれる。
82	縄文土器 深鉢	—	—	—	平縁口縁。口唇部に半截竹管状工具による刻みが施される。口縁部文様帯には半截竹管状工具による横位平行沈線が施される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
83	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。波頂部は双頭を呈し、端部に半截竹管状工具による刻み、中心部に円形の刺突文が施される。口縁部文様帯には単節R L縄文・半截竹管状工具による縦位・横位平行沈線が施される。胎土には白色粒・チャート・黒色鉱物が含まれる。
84	縄文土器 深鉢	—	—	—	半截竹管状工具による縦位・斜位平行沈線施文後三叉文・一部沈線脇に刻みが施される。胎土には白色粒・石英・チャート・雲母・黒色鉱物が含まれる。
85	縄文土器 深鉢	—	—	—	平縁口縁。口縁部文様帯には矢羽状の刻みを有する横位隆帯・眼鏡状突起貼付後半截竹管状工具による弧状の平行沈線が施される。
86	縄文土器 深鉢	—	—	—	単節R L縄文施文後半截竹管状工具による縦位・斜位平行沈線が施される。平行沈線が斜位に屈曲する部分には陰刻文が施される。胎土には白色粒・チャート・黒色鉱物が含まれる。
87	縄文土器 浅鉢	—	—	—	平縁口縁。口縁部文様帯には半截竹管状工具による横位平行沈線施文後平行沈線間に連続刻みが施される。平行沈線は継手状に連結する。胎土には白色粒・石英・チャート・黒色鉱物が含まれる。
88	縄文土器 浅鉢	(56.2)	—	—	平縁口縁。口縁部文様帯は半截竹管状工具による縦位平行沈線施文後横位平行沈線で区画される。下位に位置する横位平行沈線端部は弧状に上がり上位の平行沈線に接続する。弧状に上がる平行沈線脇には三叉文が施される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
89	縄文土器 浅鉢	—	—	—	波状口縁。波長部には環状の突起が付される。口縁部文様帯には半截竹管状工具による縦位・横位・弧状・渦巻き状の平行沈線・三角押文・三叉文が施される。内面口縁下に角棒状工具による弧状の沈線が施される。一部赤彩残る。胎土には白色粒・石英・チャートが含まれる。
90	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。口縁端部は折り返される。口縁部文様帯には刻みを有する菱形の隆帯貼付後半截竹管状工具による平行沈線が隆帯脇に施される。胎土には白色粒・黒色粒・チャートが含まれる。
91	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。口縁部文様帯には連続爪形文を有する縦位・横位隆帯が付される。残存部位に限り体部無文。胎土には白色粒・石英・チャートが含まれる。
92	縄文土器 深鉢	—	—	—	平縁口縁。口縁部文様帯には半截竹管状工具による縦位・横位・斜位平行沈線が施される。胎土には白色粒・石英・チャートが含まれる。
93	縄文土器 深鉢	—	—	—	単節R L縄文施文後横位浮線文が付される。胎土には白色粒・石英・チャート・雲母が含まれる。
94	縄文土器 深鉢	—	—	—	単節R L縄文施文後横位浮線文が付される。胎土には白色粒・石英・チャート・雲母が含まれる。
95	縄文土器 深鉢	—	—	—	平縁口縁。単節L R縄文施文後横位・斜位結節浮線文が施される。口縁下の横位浮線文のみ結節なし。胎土には白色粒・チャート・黒色鉱物が含まれる。

第10表 6号住居跡出土土器観察表③

番号	種類	法量 (cm)			特 徴
		口径	底径	器高	
96	縄文土器 深鉢	—	—	—	0段多条R L縄文施文後縦位・横位結節浮線文が施される。胎土には白色粒・黒色粒・チャートが含まれる。
97	縄文土器 深鉢	—	—	—	単節R L縄文施文後横位結節浮線文が施される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
98	縄文土器 深鉢	—	—	—	単節L R縄文・半截竹管状工具による横位平行沈線施文後平行沈線脇に交互刺突文が施される。胎土には白色粒・石英・チャート・雲母が含まれる。
99	縄文土器 深鉢	—	—	—	平縁口縁。半截竹管状工具による横位連続爪形文・三角陰刻が施される。胎土には白色粒・チャート・雲母が含まれる。
100	縄文土器 深鉢	—	—	—	平縁口縁。単節L R縄文施文後半截竹管状工具による横位平行沈線が施される。平行沈線間に三角陰刻の交互配列が施される。胎土には白色粒・石英・チャート・雲母が含まれる。
101	縄文土器 深鉢	—	—	—	平縁口縁。注口状の突起が付され、半截竹管状工具による縦位・横位平行沈線・連続刺突により加飾される。横位平行沈線には連続爪形文が施される。胎土には白色粒・チャート・黒色鉱物が含まれる。
102	縄文土器 深鉢	—	—	—	単節R L縄文施文後半截竹管状工具による深い横位平行沈線が施される。一部平行沈線を連続刺突文がなぞる。胎土には白色粒・チャート・雲母・黒色鉱物が含まれる。
103	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。波頂部より「し」の字状の隆帯を垂下させ、半截竹管状工具による縦位・斜位平行沈線・連続刺突文が施される。胎土には白色粒・石英・チャート・黒色鉱物が含まれる。
104	縄文土器 深鉢	—	—	—	平縁口縁。横位・斜位隆帯貼付後半截竹管状工具による縦位・斜位平行沈線が施される。胎土には白色粒・石英・チャート・雲母が含まれる。
105	縄文土器 深鉢	—	—	—	縦位・横位・斜位・弧状隆帯貼付後隆帯脇に角棒状工具による沈線が施される。胎土には白色粒・チャート・雲母が含まれる。
106	縄文土器 深鉢	—	—	—	縦位・横位・斜位・弧状隆帯が付される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
107	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。口縁部文様帯は波頂部より垂下する「X」字状隆帯・指頭押圧が施される横位隆帯で区画され、区画内に半截竹管状工具による縦位平行沈線が施される。「X」字状隆帯の頂部は結節浮線文状に加飾され交差部分には2本の粘土紐が付される。残存部位に限り体部無文。胎土には白色粒・チャート・雲母が含まれる。
108	縄文土器 深鉢	—	—	—	平縁口縁。口縁端部は折り返される。口縁部文様帯は指頭押圧が施される横位隆帯で区画され、区画内に角棒状工具による縦位沈線が施される。残存部位に限り体部無文。胎土には白色粒・石英・チャート・雲母が含まれる。
109	縄文土器 深鉢	—	—	—	平縁口縁。0段多条R L縄文・斜位隆帯貼付後隆帯脇に丸棒状工具による押引文が施される。胎土には白色粒・石英・チャートが含まれる。
110	縄文土器 深鉢	—	—	—	0段多条R L縄文・斜位隆帯貼付後隆帯脇に丸棒状工具による押引文が施される。胎土には色粒・石英・チャートが含まれる。
111	縄文土器 深鉢	—	—	—	平縁口縁。横位隆帯脇に丸棒状工具による押引文が施される。胎土には白色粒・石英・チャート・黒色鉱物が含まれる。
112	縄文土器 深鉢	—	—	—	平縁口縁。単節R L縄文が施される。胎土には白色粒・石英・チャートが含まれる。
113	縄文土器 深鉢	—	—	—	平縁口縁。指頭押圧を有する横位隆帯脇に三角押文が施される。胎土には白色粒・石英・チャート・雲母・黒色鉱物が含まれる。
114	縄文土器 深鉢	—	—	—	平縁口縁。口唇部に突起状の粘土紐が付される。口縁部文様帯には刻みを有する弧状隆帯貼付後隆帯脇に半截竹管状工具による平行沈線が施される。胎土には白色粒・チャート・雲母が含まれる。
115	縄文土器 浅鉢	(34.4)	—	—	平縁口縁。口縁部文様帯には刻み・丸棒状工具による交互押圧が施される横位隆帯が付される。体部無文。胎土には白色粒・石英・チャート・黒色鉱物が含まれる。

第 11 表 6号住居跡出土土器観察表④

番号	種類	法量 (cm)			特 徴
		口径	底径	器高	
116	縄文土器 深鉢	14.5	—	—	4 単位波状口縁。口縁部と体部は頂部に三角押文を有する横位鎖状隆帯で画される。口縁部文様帯は波頂部より垂下する紡錘状・交差部に 2 本の粘土紐が付される「X」字状隆帯により区画され、対角線上に同一種の隆帯が配される。紡錘状・「X」字状隆帯の内部は隆帯脇に三角押文が施され空白部に円形竹管状工具による刺突文が配される。紡錘状・「X」字状隆帯間の区画には隆帯に沿って半截竹管状工具による平行沈線施文後その内側に蓮華文が配される。口縁下には連続刻みが施される。文様の空白部には円形竹管状工具・半截竹管状工具による刺突文が施される。体部文様帯は半截竹管状工具による横位平行沈線により多段に区画され、区画内に蓮華文・三角陰刻の交互配列・縦位平行沈線が施され、区画の最下端には頂部に三角押文を有する横位蛇行鎖状隆帯貼付後隆帯に沿って半截竹管状工具による平行沈線・三角押文・連続刻みが施されるものと想定される。胎土には白色粒・石英・チャート・黒色鉱物が含まれる。
117	縄文土器 深鉢	(25.0)	—	—	4 単位波状口縁。波頂部内面には蛇行隆帯が付される。口縁部文様帯は波頂部両脇から垂下する隆帯・横位隆帯により区画され、隆帯頂部には刻みが施される。縦位隆帯間のみ横位隆帯は蛇行させる。区画内には半截竹管状工具による横位平行沈線が多段に施される。体部文様帯には単節 L R 縄文が施される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
118	縄文土器 深鉢	(23.4)	—	—	2 ないし 3 単位波状口縁。口端は折り返される。口縁部文様帯は横位に走行する弧状隆帯により区画され、区画内に口縁下より派生する「V」字状の隆帯貼付後斜位・弧状の三角押文が施される。「V」字状の隆帯は波頂部より垂下するものに限り、端部を 2 本の粘土紐で閉じる。体部文様帯には横方向に走行する連弧状の隆帯が付される。胎土には白色粒・チャート・黒色鉱物が含まれる。

第 12 表 7号住居跡出土土器観察表

番号	種類	法量 (cm)			特 徴
		口径	底径	器高	
119	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部半截竹管状工具による平行沈線でパネル文を施文後、平行沈線脇に同様の工具で爪形文→蓮華文の順に文様が施文される。平行沈線の会合部には一部挟りが入れられる。内面は横・斜位のナデ。胎土には石英・長石・凝灰岩粒・黒色粒が含まれる。
120	縄文土器 深鉢	—	—	—	平口縁。口縁部単節 RL 縄文を横位施文後、口唇部から口端部にかけて、多截竹管状工具によるΣ字状の押引文が施文される。内面は横位のナデが施され、単節 RL 縄文を横位施文後、口端部外面と同様の手法によるΣ字状押引文が施文される。胎土には石英・長石・チャートが含まれる。
121	縄文土器 深鉢	—	—	—	平口縁。口縁部単節 RL 縄文を横位施文後、断面三角形の隆帯による直線文・円文を施文し、隆帯脇や口縁部に多截竹管状工具によるΣ字状押引文が施文される。また、円文の隆帯上面には同様の工具でキザミが施される。内面は単節 RL 縄文を横位施文および横位のナデ。胎土には多量の石英・雲母が含まれる。
122	縄文土器 深鉢	—	—	—	平口縁。口端部竹管状工具による連続爪形文を施文。口縁部には半截竹管状工具による平行沈線で多条の横位直線文・山形文が施文される。内面は丁寧な横位のナデ。胎土には石英・凝灰岩粒が含まれる。
123	縄文土器 深鉢	—	—	—	平口縁。口唇部丸棒状工具による沈線が施文される。口縁部は横位のミガキが施され、直下には丸棒状工具による横位沈線を施文後、半截竹管状工具による多条の平行沈線文が縦位に施文される。内面は丁寧な横位のナデ。胎土には多量の石英・雲母が含まれる。
124	縄文土器 深鉢	—	—	—	平口縁。口端部外面に横位の隆帯を貼付後、半截竹管状工具による平行沈線および沈線で渦巻文・三叉文・円文を施文し、沈線脇に同様の工具による爪形文や蓮華文が施文される。内面は横位のナデ。胎土には石英・多量の雲母・多量の白色粒が含まれる。
125	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部単節 RL 縄文を斜位施文後、横位の指頭押捺隆帯を貼付し、隆帯脇に半截竹管状工具による平行沈線で U 字状文・横位直線文が施文される。また、先端を加工した竹管状工具による三角押文が施文される。内面は横・斜位のナデ。胎土には石英・黒色鉱物・青灰色粒が含まれる。
126	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部縦位の隆帯を貼付後、隆帯脇に半截竹管状工具による平行沈線を施文し、隆帯上面には同様の工具によるキザミが施される。内面は横位のナデ。胎土には石英・凝灰岩粒が含まれる。
127	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部半截竹管状工具による縦位の平行沈線を施文後、同様の工具で平行沈線脇に爪形文→蓮華文の順に文様が施文される。また、爪形文の区画内には玉抱き三叉文が施文される。内面は丁寧な横位のナデ。胎土には石英・多量の白色粒が含まれる。
128	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部隆帯による突起・楕円形区画文を施文後、隆帯脇に丸棒状工具による沈線が施文される。沈線施文後には隆帯上面に突起を貼付し、突起には円形竹管文が施文され、その後、隆帯脇に先端を加工した竹管状工具による三角押文が施文される。内面は横位のナデ。胎土には石英・凝灰岩粒が含まれる。
129	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部単節 RL 縄文を斜位施文。内面は丁寧な横位のナデ。胎土には多量の石英・多量の白色粒が含まれる。

第 13 表 10 号住居跡出土土器観察表

番号	種類	法量 (cm)			特 徴
		口径	底径	器高	
130	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。波頂部に渦巻き状の隆帯を貼付後、隆帯脇に丸棒状工具による沈線を施文し、沈線内にはペン状工具による刺突列点文が施文される。内面は粗い横位のナデ。胎土には石英・角閃石・凝灰岩粒が含まれる。
131	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部ナデの後、棒状の突起・隆帯を貼付し、突起間には丸棒状工具による縦位の沈線が施文される。内面は横位のナデ。胎土には石英・チャートが含まれる。
132	縄文土器 台付鉢	—	—	—	胴部に楕円形の透かし孔が設けられる。また、縦位の隆帯が貼付され、ナデによる調整が施される。底部には網代痕が認められる。内面はナデ。胎土には石英・雲母・チャートが含まれる。
133	縄文土器 浅鉢	—	—	—	波状口縁。口縁部隆帯による重弧文を施文後、丸棒状工具による沈線が施文される。胴部は横位のナデ。内面は横位のナデ。胎土には多量の石英・灰色粒が含まれる。
134	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。口縁部微隆起線による直線文・弧状文が施文され、微隆起線周縁にはナデによる調整が施される。内面は斜位のケズリ後、斜位のナデ。胎土には石英・チャート・凝灰岩粒・黒色粒が含まれる。
135	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁か。口縁部断面三角形の隆帯による区画文・弧状文が施文される。内面は横位のナデ。胎土には石英・長石が含まれる。
136	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部微隆起線による多条の横位直線文が施文される。内面は斜位のナデ。胎土には石英・黒色粒・灰色粒が含まれる。
137	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部複節 RLR 縄文を横位施文後、断面台形状の隆帯による弧状の区画文が施文される。隆帯脇には丸棒状工具による沈線で縁取りがなされ、同様の工具により隆帯区画文の接点部に刺突列点文が施文される。また、区画文内には斜位の沈線が充填される。内面は横・斜位のケズリ後、横・斜位のナデ。胎土には石英・チャート・凝灰岩粒が含まれる。
138	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部断面三角形の縦位隆帯を貼付後、隆帯脇に丸棒状工具による多条の縦位沈線を施文し、縦位沈線間には斜位の沈線が充填される(時計回り施文)。内面は横・斜位のナデ。胎土には石英・チャート・黒色鉱物・凝灰岩粒・多量の白色粒が含まれる。
139	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部ナデの後、丸棒状工具による沈線で綾杉文を施文(時計回り)。内面はナデ。胎土には石英・チャート・凝灰岩粒が含まれる。
140	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部単節 RL 縄文を斜位施文後、丸棒状工具による沈線で弧状・楕円形のモチーフが描かれる。内面は横位のケズリ後、横位のナデ・ミガキ。胎土には石英・黒色鉱物・凝灰岩粒が含まれる。
141	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部単節 LR 縄文を縦位施文後、丸棒状工具による沈線で2条の懸垂文を施文し、懸垂文間の縄文を一带おきに磨り消す。内面は横・斜位のケズリ・ナデ。胎土には石英・凝灰岩粒・赤色粒が含まれる。
142	縄文土器 深鉢	—	—	—	胴部単節 LR 縄文を縦位施文後、丸棒状工具による沈線で2条の懸垂文を施文し、懸垂文間の縄文を一带おきに磨り消す。内面は斜位のナデ。胎土には石英・凝灰岩粒・赤色粒が含まれる。
143	縄文土器 深鉢	(28.6)	—	—	口縁部は横位、胴部は縦位のケズリ・細密な条痕が施された後、口縁部には横位、胴部には縦位のヘラ状工具によるナデが施される。内面は口縁部付近横位、胴部斜位のヘラ状工具によるナデ。胎土には石英・長石・白雲母・凝灰岩粒が含まれる。

第14表 縄文時代後期・晩期土器観察表①

番号	種類	法量 (cm)			特 徴
		口径	底径	器高	
144	縄文土器 深鉢	—	7.2	—	胴部丸棒状工具による横位沈線を施文。無文部は横・斜位のミガキ。底部網代痕（1本越え2本潜り1本送り）。内面は横・斜位のミガキ。胎土には石英、褐色粒、黒色粒、多量の白色粒が含まれる。
145	縄文土器 浅鉢	(25.0)	—	—	口縁部竹管状工具による横位沈線・刺突文を施文。無文部は横位のミガキ。体部横位のケズリ→縦・斜位のナデ。内面は横位のミガキ。胎土には石英、黒色粒、多量の白色粒が含まれる。
146	縄文土器 注口	—	—	—	体部細沈線による横位の条線、屈曲部には斜行文を施文→丸棒状工具による太沈線で「の」字状・半円状の単位文を施文。無文部はミガキ。内面は棒状工具による横位のナデ。胎土には石英、金雲母、褐色粒、黒色粒、多量の白色粒が含まれる。
147	縄文土器 注口	—	—	—	体部太沈線による円文、細沈線による2条の横位区画文を施文→区画文間に同様の工具で斜行沈線を充填、円文脇には渦文を施文。無文部はミガキ。内面は横位のナデ。胎土には石英、灰色粒、チャートが含まれる。
148	縄文土器 注口	—	—	—	体部太沈線による横位区画文を施文→集合沈線による渦文を施文。無文部はミガキ。内面は斜位のナデ。胎土には石英、多量の褐色粒・灰色粒、赤色粒が含まれる。
149	縄文土器 注口	—	—	—	体部太沈線による横位区画文→集合沈線による渦文。無文部はミガキ。内面は丁寧な横・斜位のナデ。胎土には石英、凝灰岩粒が含まれる。
150	縄文土器 注口	—	—	—	体部太沈線による2本一組の横位区画文を数条施文→区画文間に細沈線によるキザミを充填。また、丸棒状工具による沈線で「C」字状や円形の単位文を施文し、単位文内部に「T」字状や「一」字状のモチーフを施文。無文部はミガキ。内面は横位のナデ。胎土には石英、長石、凝灰岩粒、褐色粒、灰色粒が含まれる。
151	縄文土器 注口	—	—	—	体部太沈線による2本一組の横位区画文を数条施文、体下部には横位の集合沈線を施文→区画文間に細沈線によるキザミを充填。また、丸棒状工具による沈線で「の」字状・円形の単位文を施文し、単位文内部に「一」字状のモチーフを施文。無文部はミガキ。内面は横位のナデ。胎土には石英、長石、凝灰岩粒、褐色粒、灰色粒が含まれる。
152	縄文土器 注口	—	—	—	体部太沈線による2条の横位区画文を施文→区画文間に同様の沈線による斜行文を充填施文。集合沈線による渦文。無文部はミガキ。内面は横位のナデ。胎土には石英、長石、凝灰岩粒、黒色粒が含まれる。
153	縄文土器 注口	—	—	—	体部細沈線による斜行文を施文→太沈線による横位区画文を施文。無文部はミガキ。内面はナデ。胎土には多量の石英・長石・金雲母が含まれる。
154	縄文土器 注口	—	—	—	体部細沈線による斜行文を施文→太沈線による横位区画文・「の」字状の単位文を施文。無文部はナデ。内面はナデ・ユビオサエ。胎土には多量の石英・長石・金雲母、褐色粒が含まれる。
155	縄文土器 注口	—	—	—	体部細沈線による斜行文を施文→太沈線による横位区画文を施文→櫛歯状工具による横線文を施文。無文部はミガキ。内面は横位のナデ。胎土には多量の石英・金雲母、褐色粒、黒色粒が含まれる。
156	縄文土器 注口	—	—	—	体部櫛歯状工具による横線文・渦文を施文→沈線や刺突・押し引きで横線文や円文を縁取り。無文部はナデ。内面はナデ。胎土には多量の石英・金雲母、褐色粒、灰色粒が含まれる。
157	縄文土器 注口	—	—	—	体部櫛歯状工具による横線文・渦文を施文→沈線で横線文や円文を縁取り。無文部は丁寧なナデ。内面はナデ。胎土には多量の石英・黒雲母が含まれる。
158	縄文土器 注口	—	—	—	体部細沈線による斜行文を施文→同様の工具による横位区画文を施文→刺突文を施文→上部の斜行文を施文。内面は横位のナデ。胎土には石英、黒色粒、灰色粒が含まれる。
159	縄文土器 注口	—	—	—	体部細沈線による斜行文を施文→太沈線による横位区画文を施文。無文部は丁寧なミガキ。内面は横位のナデ。胎土には石英、雲母が含まれる。
160	縄文土器 注口	—	—	—	体部細沈線による斜行文を施文→同様の工具による横位区画文を施文→先端円錐状の工具による刺突文を施文。無文部は丁寧なミガキ。内面は横位のナデ。胎土には石英、長石、金雲母、黒色粒が含まれる。
161	縄文土器 深鉢	—	—	—	波状口縁。口唇部矢羽状のキザミ。ミガキ。口縁部半截竹管状工具による横位の平行沈線を施文→S字状のキザミ→横位のミガキ。内面はケズリ→ナデ。胎土には石英、多量の雲母、黒色粒が含まれる。
162	縄文土器 深鉢	—	—	—	平口縁に小突起を付す。小突起部端面には丸棒状工具による刺突文を施文。口唇部へら状工具による斜位のキザミ。丸棒状工具による沈線で2本一組の横位区画文を施文→区画文内に入組文を施文。無文部は丁寧な横位のナデ。内面は横位沈線を1条施文。無文部は口端部横位のミガキ。口縁部横位のナデ。胎土には石英、多量の金雲母が含まれる。

第 15 表 縄文時代後期・晩期土器観察表②

番号	種類	法量 (cm)			特 徴
		口径	底径	器高	
163	縄文土器 浅鉢	-	-	-	体部横位のケズリ→横位のミガキ。内面は丸棒状工具による横位の沈線を多条施文、端部は弧状の沈線によって閉じられる→横位沈線間にへら状工具による斜位のキザミ。無文部は横位のミガキ。胎土には石英、多量の金雲母・白色粒が含まれる。
164	縄文土器 深鉢	-	-	-	波状口縁。口縁部丸棒状工具による沈線で綾杉状文・工字状文を施文→単節 LR 縄文を横位施文。内面は横・斜位のミガキ。胎土には石英、雲母、骨針、黒色粒が含まれる。
165	縄文土器 深鉢	-	-	-	胴部丸棒状工具による沈線を施文→単節 RL 縄文を横位に充填施文。無文部は横位のミガキ。内面は横位のミガキ。胎土には多量の石英・長石が含まれる。
166	縄文土器 深鉢	-	-	-	胴部丸棒状工具による横位沈線を多条施文→沈線端部に弧状文を縦位に施文、沈線間に単節 RL 縄文を横位に充填施文。無文部は縦・斜位のケズリ→縦位のミガキ。内面は横・斜位のミガキ。胎土には多量の石英・長石が含まれる。
167	縄文土器 深鉢	-	-	-	胴部丸棒状工具による横位沈線を施文、端部は弧状の沈線によって閉じられる→横位沈線間に単節 LR 縄文を横位に充填施文。無文部は横位のナデ。内面は横位のナデ。胎土には石英、チャート、褐色粒、黒色粒、礫が含まれる。
168	縄文土器 深鉢	-	-	-	波状口縁。口縁部の形状に沿って丸棒状工具による 2 条の沈線を施文→横位沈線間に単節 LR 縄文を横位に充填施文。無文部は丁寧な横位のナデ。内面は丁寧な横位のナデ。胎土には石英、多量の金雲母が含まれる。
169	縄文土器 深鉢	-	-	-	平口縁。口唇部棒状工具によるキザミ。口縁部下端に丸棒状工具による横位沈線を施文。無文部は横位のミガキ。内面は横位のミガキ。胎土には多量の石英・長石、灰色粒が含まれる。
170	縄文土器 深鉢	-	-	-	平口縁。口縁部丸棒状工具による横位沈線を施文→同様の工具による刺突文。無文部は丁寧な横位のミガキ。内面は横位のミガキ。胎土には石英、金雲母が含まれる。
171	縄文土器 深鉢	-	-	-	平口縁。口縁部丸棒状工具による斜行文を施文→同様の工具による刺突文を施文。内面は摩滅のため不明。胎土には石英、長石、礫が含まれる。
172	縄文土器 深鉢	-	-	-	波状口縁。口縁部の形状に沿って半截竹管状工具による平行沈線を施文→竹管状工具による刺突文を施文。無文部は横位のミガキ。内面は摩滅（横位のナデか）。胎土には多量の石英、雲母が含まれる。
173	縄文土器 深鉢	-	-	-	口縁部横位の突帯を貼付、無文部は横位のミガキ→突帯上面に単節 RL 縄文を横位施文。内面は横位のミガキ。胎土には石英、褐色粒、黒色粒が含まれる。
174	縄文土器 深鉢	-	-	-	波状口縁。口縁部丸棒状工具によるキザミ隆帯を貼付→隆帯下に半截竹管状工具による平行沈線を施文。無文部は横位のナデ。内面は横位のナデ。胎土には石英、多量の礫が含まれる。
175	縄文土器 深鉢	-	-	-	波状口縁。口縁部半截竹管状工具による平行沈線で山形文を施文。無文部はナデ。内面は横位のナデ。胎土には石英、長石、褐色礫が含まれる。
176	縄文土器 深鉢	-	-	-	平口縁。口縁部ナデ、半截竹管状工具による平行沈線で横位の波状文（コンパス文）を 2 条以上施文→内面は丁寧な横位のナデ。胎土には多量の石英、金雲母が含まれる。
177	縄文土器 深鉢	-	-	-	波状口縁。口縁部横位のナデ、単節 LR 縄文を横位施文。頸部へら状工具によるキザミ隆帯を貼付。胴部単節 LR 縄文を横位施文か。無文部はナデ。内面は横位のナデ。胎土には石英、褐色粒、黒色礫が含まれる。
178	縄文土器 台付鉢	-	-	-	波状口縁か。口縁部竹管状工具の端部によるキザミ隆帯を貼付。無文部は横位のナデ。内面は横位のナデ。胎土には石英、長石、褐色粒、黒色粒が含まれる。
179	縄文土器 浅鉢	-	-	-	平口縁。口縁部丸棒状工具によるキザミ隆帯を貼付、無文部はナデ。内面はナデ。胎土には石英、灰色粒、白色粒が含まれる。
180	縄文土器 深鉢	-	-	-	胴部へら状ないし竹管状工具の端部によるキザミ隆帯を貼付、無文部はナデ。内面は横位のナデ。胎土には多量の石英、褐色粒、黒色粒が含まれる。
181	縄文土器 深鉢	-	-	-	胴部細い丸棒状工具によるキザミ隆帯を貼付。無文部はナデ。内面は横位のナデ。胎土には石英、黒色粒、褐色粒が含まれる。
182	縄文土器 深鉢	-	-	-	胴部キザミ隆帯を貼付、横位のナデ。内面は横位のナデ。胎土には石英、凝灰岩粒、礫が含まれる。
183	縄文土器 深鉢	-	-	-	胴部断面台形状の隆帯を貼付→単節 RL 縄文を斜位施文。内面は斜位のナデ。胎土には石英、黒色粒が含まれる。
184	縄文土器 深鉢	-	-	-	平口縁。口唇部単節 LR 縄文を横位施文→隆帯貼付→前面ミガキ・赤彩。内面は横位のミガキ。胎土には石英、凝灰岩粒、白色粒が含まれる。
185	縄文土器 深鉢	-	-	-	平口縁に 2 個一対の山形突起を付す。内外面ともに横位のミガキ。胎土には石英、長石、雲母が含まれる。

第 16 表 弥生土器観察表

番号	種類	法量 (cm)			特 徴
		口径	底径	器高	
186	弥生土器 壺	—	—	—	口唇部 2 本同時施文具による押し引き文。口縁部横位の条痕→突帯貼付。内面は斜位のナデ。胎土には多量の石英、黒色粒が含まれる。
187	弥生土器 壺	—	—	—	口唇部 2 本同時施文具による押し引き文。口縁部横位の細条痕・丸棒状工具による横位沈線→突帯貼付→突帯を指で押捺。内面は横位の波状文（二枚貝か）を施文、無文部は横位のナデ。胎土には多量の石英、金雲母が含まれる。
188	弥生土器 壺	—	—	—	頸部横位の条痕（二枚貝か）を下から上へ施す。内面は縦・斜位のナデ。胎土には多量の石英、雲母、灰色粒が含まれる。
189	弥生土器 壺	—	—	—	胴部二枚貝による縦位の羽状条痕（反時計回り）。内面は横・斜位のナデ。胎土には多量の石英、金雲母、褐色粒が含まれる。
190	弥生土器 甕	—	—	—	口唇部竹管状工具の端部によるキザミ。口縁部横位のナデ（回転台は使用か不明）。内面は横位のナデ。胎土には石英、長石が含まれる。

第 17 表 グリッド等出土土器観察表

番号	種類	法量 (cm)			特 徴
		口径	底径	器高	
191	縄文土器 深鉢	(26.8)	—	—	4 単位波状口縁と想定される。口唇部内外面に半裁竹筒状工具による連続Σ字状刺突文が施される。口縁部文様帯は 0 段多条 L R 縄文施文後幅広の横位連続Σ字状刺突文により区画され、波頂部下に 2 重円状の半裁竹筒状工具によるΣ字状特殊突帯文が付され、このモチーフを横位Σ字状特殊突帯文で繋ぐ。体部文様帯は 0 段多条 L R 縄文施文後円形状・やや弧状に垂下するΣ字状特殊突帯文が付される。内面口縁下に 0 段多条 L R 縄文が施される。胎土には白色粒・チャートが含まれる。
192	縄文土器 深鉢	16.5	8.5	22.9	9 山の小波状口縁、直下の口頸部に同数のふくらみ。2 か所の波頂部において渦巻文。口唇部直下に刻目。口頸部、縦位沈線。胴部上半、キャタピラ文を伴う隆帯と角押文による横位枠状の区画。胴部下半、キャタピラ文を伴う斜位の短い隆帯。
193	縄文土器 深鉢	34.0	—	—	全周 5 単位の文様構成。断面角頭状の口唇部。外面口縁部付近、凸字状の沈線。直下に刻目文を伴う隆帯が周回。胴部、渦巻文を基点とし、2 本 1 組の隆帯、または蛇行する 1 本の隆帯が垂下。2 本 1 組の隆帯間に斜位短沈線が充填される箇所、および隆帯間に縦位の蛇行沈線が配される箇所がそれぞれ 1 つずつ設けられ、変則的な配置をとる。胴部文様帯の地文として、単節縄文 RL が用いられる。

第 18 表 出土石器観察表

番号	出土遺構名	種類	法量 (cm)			重量 (g)	石材
			長さ	幅	厚さ		
194		石匙	4.30	残 5.08	0.95	14.580	下呂石
195		石匙	3.85	4.40	0.65	5.380	下呂石
196	1 住	打製石斧	10.80	4.75	1.30	81.060	安山岩
197	1 住	打製石斧	残 7.05	4.95	1.80	84.570	安山岩
198	1 住	打製石斧	残 5.15	残 4.25	1.10	39.120	安山岩
199	1 住	打製石斧	残 4.45	残 4.30	2.05	39.730	安山岩
200		磨製石斧	10.70	3.60	2.00	100.620	閃緑岩（砂質）
201		磨石	残 6.80	残 7.20	4.70	237.000	石英斑岩（流紋岩）
202		石錘	6.30	3.55	1.85	50.110	頁岩
203		石錘	5.40	4.10	1.85	62.710	ホルンフェルス
204		石棒→スクレイパー	残 7.95	3.10	1.15	42.860	緑色岩類



1号住居跡出土土器〔1〕





11外面



11内面



12外面



12内面



14



15



16



18



1号住居跡出土土器〔4〕



2号住居跡出土土器



3号住居跡出土土器



4号住居跡出土土器〔1〕



24



26



27



28



29



30



31



33



32外面



32内面



34



35



36



38



37外面



37内面



39



40

(萩原町教委 1986「桜洞神田遺跡」より転載)

4号住居跡出土土器〔4〕



41



41



64

(萩原町教委 1986「桜洞神田遺跡」より転載)

5号住居跡出土土器〔1〕



42外面



42内面



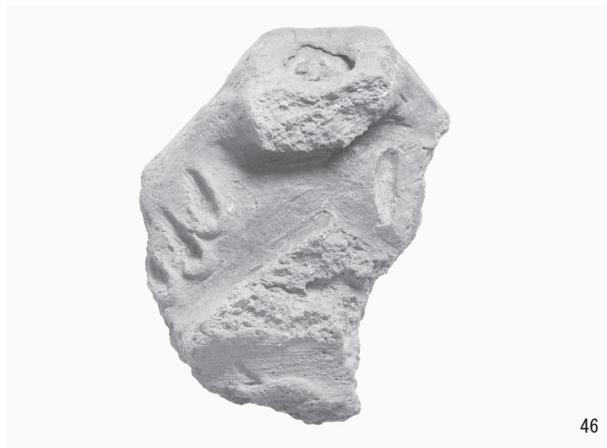
43



44



45



46



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



63



65外面



65内面



66外面



66内面



67外面



67内面



68外面



68内面



69外面



69内面



70外面



70内面



71外面



71内面



72外面



72内面



73



74



75外面



75内面



76



80



81



82



83



84



85



86



87



88



89外面



89内面



6号住居跡出土土器〔5〕







77



116



117



118



119



122



123



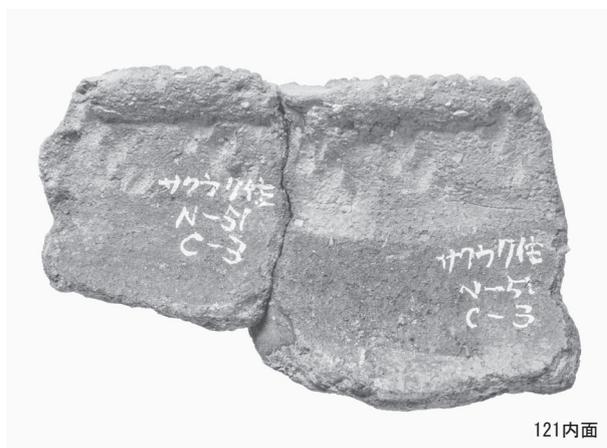
120外面



120内面



121外面



121内面

7号住居跡出土土器〔1〕



124



125



126



127



128



129



130



131



132



133



134



135



136



137



138



139



140



141



142



143



144



145



146



147



148



149



150



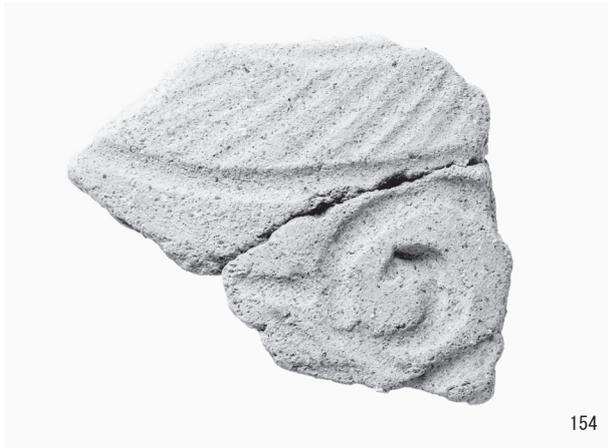
151



152



153



154



155



156



157



158



159



160



161



162



163



164



165



166



167



168



169



170



171



172



173



174



175



176



177



178



179



180



181



182



183



184外面



184内面



185外面



185内面



186



188



187外面



187内面



189



190

弥生時代出土土器〔2〕



191

グリッド等出土土器



194表面



194裏面



195表面



195裏面



196表面



196裏面



197表面



197裏面



199表面



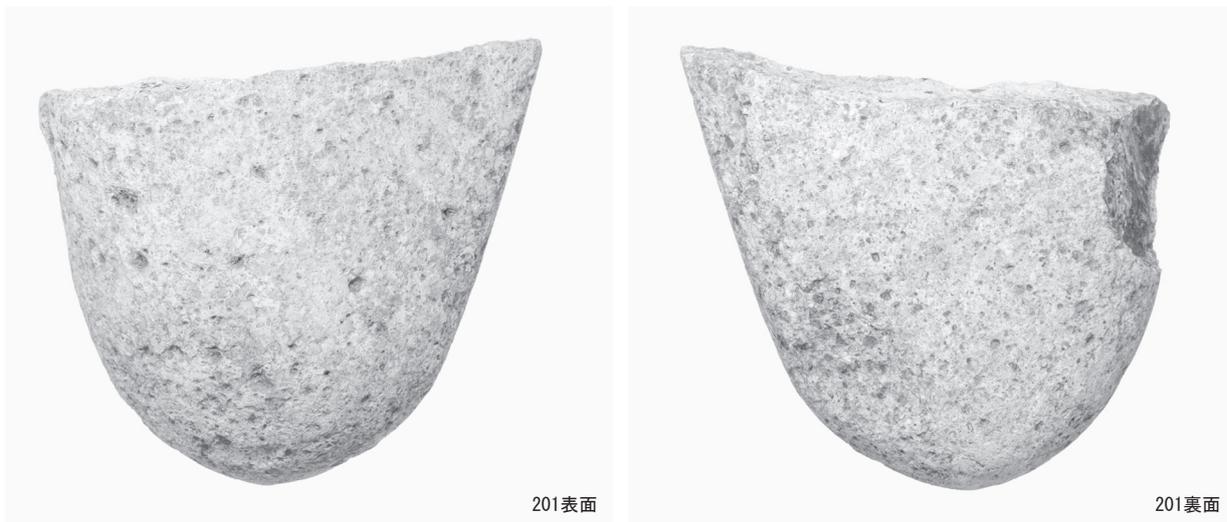
199裏面



198表面



198裏面



出土石器〔2〕

報告書抄録

ふりがな	さくらぼらじんでんいせき いぶつじっそくず・しゃしんずはん							
書名	桜洞神田遺跡 遺物実測図・写真図版							
副書名	1986年度『桜洞神田遺跡―桜洞神田遺跡発掘調査報告書―』再整理事業							
シリーズ名	下呂市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第11集							
編著者名	馬場伸一郎							
編集機関	下呂市教育委員会							
所在地	〒509-2517 岐阜県下呂市萩原町萩原1166番地8							
発行年月日	西暦2020年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さくらぼらじんでんいせき 桜洞神田遺跡	ぎふけんげろし 岐阜県下呂市 はぎわらちようさくらぼら 萩原町桜洞 344番地1～6・ 406番地・407番 地（現筆界基準）	21220	853	35° 52' 58"	137° 13' 15"	19860425 } 19870320	680㎡	農業関連 (圃場整備)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
桜洞神田遺跡	集落跡	縄文、弥生	竪穴建物 11	縄文土器、弥生土器、 石器		縄文時代前期後葉～前 期末・中期初頭～中期 後葉、後期中葉～後期 後葉、晩期前葉、弥生 時代前期後葉～中期初 頭		
要約	<p>桜洞神田遺跡は、飛騨川の支流となる桜谷左岸の河岸段丘に位置する。この遺跡では昭和48年度に道路拡幅工事に伴う発掘調査（萩原町教育委員会1974『飛騨桜洞・沖田』）が実施されている。本書掲載の遺物が出土した発掘調査は昭和61年度に実施され、萩原町教育委員会から昭和62年3月に『桜洞神田遺跡―桜洞神田遺跡発掘調査報告書―』として発掘調査報告書が刊行されている。</p> <p>その報告書によると、11軒の竪穴建物が検出と、縄文時代中期を主体に、幅広い時期の土器が出土したとされているが、出土遺物の報告が一部であったため、平成27年度から令和元年度の5年間に出土遺物の再実測を中心とした再整理事業を実施し、本書に遺跡の評価に係る重要な遺物実測図と写真を掲載した。</p> <p>なお、当時の調査の経緯及び調査の成果については、萩原町教育委員会1986『桜洞神田遺跡―桜洞神田遺跡発掘調査報告書―』をご参照頂きたい。</p>							

2020年3月31日発行

下呂市文化財調査報告書第11集

1986年度『桜洞神田遺跡発掘調査報告書』再整理事業

桜洞神田遺跡 遺物実測図・写真図版

発行・編集 下呂市教育委員会 教育総務課 文化財係
〒509-2517 岐阜県下呂市萩原町萩原1166番地8
電話 0576-52-4800